明治三十五年九月二十四日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百五拾四號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回十五日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衞生雜誌

第百五十四號　目次

●例會報告

本會集會の義炎暑中休會致し居候處追々秋冷相催し候間來十月四日(第一土曜日)午后正一時より晴雨に拘はらず例會を麴町區虎の門内東京女學館講堂に於て相開き左記の通講演有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會有之度此段御案内申上候也

追而開會時間勵行衣服は勤めて御質素に相願候

家庭看護法　醫學博士　三宅秀君

演題未定　醫學士　佐藤達次郎君

以上

明治三十五年九月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんとは皆ともに希はざるはあらじされども身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も／＼衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつはら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは實に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人相ひ謀り一會を設け名けて大日本婦人衛生會といひ毎月一囘集合を開き學識經驗ある人々を招請して衛生上諸般の講義演說談話を聽き互に相研究し尙之を綴記して册子を綴輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸姉妹に告げ其賛成を仰ふくことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則

（明治廿一年十二月改正）

●第一章　目的

第一條　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會一般の幸福を增進するにあり

●第二章　名稱位置

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三章　會員

第四條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會するを得入會せんとするときは姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續細則に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるへし

第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上　通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本旨に功分ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員の協議に依り無會費とすることあるへし

第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得

第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返却せず

●第四章　役員

第九條　本會に贊成員を置き其中より總裁一名を推し皇族の妃殿下に願出るものとす

第十條　本會に左の役員を置く

會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名

第十一條　會長副會長幹事評議員は毎年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし

第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす

第十三條　會長の見込を以て役員外特に會員中より臨時指名委員を設くることあるべし

第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺位を生ずるときは次點者を以て補缺す

第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第五章　集會

第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一囘とし通常第一土曜日午後一時より開會するものとす總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし評議員會は時々開會須要の事項を評議するものとす

第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす

第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を陪聽せしむることを得但衣服は總て質素たるへきこと

第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず但贊成員若くは會員に緣故ある男子は此限にあらず

第二十條　規則の改正を要し又は重要の事件あるときは總會に於て議定するものとし議定は總て多數決とし可否同數なるときは議長之を決するものとす

第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要を會員に報告すべし

●第六章　會計

第廿二條　本會の所在金は本會ノ名義を以て三井銀行に預け置くものとす但[illegible]額に限り日用支出の爲事務所に引出置くことを得

第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす

第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

●第七章　支會

第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會の承認を受け支會を設立することを得支會は私立大日本婦人衛生會某支會と稱し其規則は本會の規則に抵觸せざる條[illegible]べし

第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載し[illegible]申出[illegible]後會員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すへし[illegible]々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす

第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得

第廿八條　支會に加入したる本會々員に配付すべき本會の雜誌は支會に同送[illegible]へきを以て其實費を支會より本會に送付すべし本會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ

第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●第八章　雜件

第三十條　本會は毎月一度雜誌を發刊し例會に於ける衛生上の講義演說談話等の筆記及內外諸報本會の諸報告寄[illegible]を揭け之を會員に配付すへし[illegible]會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を詳細に登錄し倘

本會雑誌を以て報告すべし

第卅二條　會費金は受領證を送付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割増）

第卅三條　會費は東京府下に限り毎月徴收人差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所在の郵便局（牛込局宛）振出しあるべし

第卅四條　會員中若し本會の隆害となるべき所爲ある者又は屢々會費の督促するも納付せざる者あるときは會長評議の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

第卅五條　本規則は會長の意見又は會員二十名以上の贊成に依り總會の決議を經るに非ざれば之を更正することを得ず

事務所　東京市牛込區矢來町三番地六

私立大日本婦人衞生會

●役員姓名

總裁　小松若宮依仁親王妃　周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子

仝　羽田三緒子

仝　徳田統歌子

仝　岡田[illegible]子

仝　高木かう子

仝　松平芳子

仝　三浦數子

評議員　石川さだ子

仝　瀧田徐子

仝　仁禮壽賀子

仝　男爵夫人　四辻[illegible]子

仝　西[illegible]部子

仝　徳方[illegible]子

仝　男爵夫人　緒方悅子

仝　男爵夫人　川口直子

仝　加藤鈴子

仝　子爵夫人　吉武[illegible]子

仝　田中伊代子

仝　高橋孝子

仝　男爵夫人　乃木[illegible]子

仝　南部[illegible]子

仝　中濱芳子

仝　岡山とし子

仝　山木多德子

仝　子爵夫人　松前[illegible]子

仝　子爵夫人　松井正子

仝　伯爵夫人　馬渡玉子

仝　子爵夫人　松平充子

仝　秋元宗子

仝　三宅藤子

仝　宮木樂子

仝　宮下吹子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎

本會特別贊成員

（並に本會に於て講演せられし諸氏）

醫學博士　入澤達吉君

理學博士　飯島魁君

ドクトル　伊澤修二君

地方視學官　色川圀士君

醫學士　伊東祐彦君

ドクトル　伊藤[illegible]君

醫學博士　飯盛挺造君

理學博士　石原喜三郎君

[illegible]　岩井禎三君

新潟[illegible]　池田[illegible]君

同　池尾[illegible]君

前文部大臣　濱尾新君

醫學博士　濱田玄達君

醫學博士　鳩山和夫君

東京[illegible]　芳賀[illegible]君

醫學博士　長谷川泰君

衞生局長　長谷川[illegible]君

新[illegible]　[illegible]君

小兒科　小原[illegible]君

醫學士　林[illegible]君

醫學士

步兵大佐　緒方[illegible]君

醫學博士　緒方正規君

醫學博士　岡田和一郎君

醫學士　土肥[illegible]君

醫學博士　大澤謙二君

一等藥劑官　大西[illegible]君

醫學士　大澤岳太郎君

男爵　恩田重信君

ドクトル　若杉喜三郎君

醫學博士　加藤弘之君

醫學博士　賀古鶴所君

醫學博士　河本重次郎君

醫學博士　隈川宗雄君

醫學士　片山國嘉君

ドクトル　川上[illegible]君

醫學博士　金杉英五郎君

醫學士　笠原光興君

ドクトル　高橋順太郎君

醫學博士　高山紀齋君

醫學博士　高木兼寛君

法學博士　高木[illegible]三君

醫學士　田代義德君

新潟[illegible]　田代[illegible]君

醫學博士　高崎[illegible]君

醫學博士　竹中成憲君

藥學博士　高田[illegible]君

醫學士　高橋[illegible]君

醫學博士　井波[illegible]君

醫學博士　高原[illegible]君

醫學博士　田原[illegible]君

醫學博士　坪井[illegible]君

醫學博士　久保猪之吉君

醫學士　佐藤達次郎君

醫學士　久保猪之吉君

三等軍醫正　星野[illegible]君

一等軍醫　横井[illegible]君

大日本[illegible]　辻新次君

理學博士　坪井正五郎君

中央衞生會長　長與專齋君

ドクトル　長與稱吉君

男爵　南部[illegible]君

醫學博士　長谷川[illegible]君

新潟[illegible]　中川[illegible]君

醫學博士　中村[illegible]君

醫學博士　村川[illegible]君

醫學博士　隈本有尚君

人[illegible]判事　栗田[illegible]君

[illegible]　山[illegible]君

醫學士　山根正次君

[illegible]　馬屋原[illegible]君

醫學博士　山川[illegible]君

生[illegible]　山茂[illegible]君

松山病院長　丸山[illegible]君

ドクトル　丸山[illegible]君

[illegible]校長　松山[illegible]君

東京[illegible]　小柴[illegible]君

醫學士　小西[illegible]君

[illegible]　小泉[illegible]君

醫學士　古川[illegible]君

東京[illegible]　布施[illegible]君

醫學士　後藤新平君

文部書記官　エッケルト君

丁[illegible]　甲野[illegible]君

前軍醫總監　吉田[illegible]君

ドクトル　秋元[illegible]君

[illegible]　足立[illegible]君

[illegible]　新井[illegible]君

[illegible]　阿部[illegible]君

醫學士　米山[illegible]郎君

高崎醫會長　土谷[illegible]君

産科婦人科　水原[illegible]君

醫學博士　佐々木政吉君

醫學士　佐田[illegible]君

ドクトル　淺倉[illegible]君

ドクトル　朝山[illegible]君

醫學博士　朝[illegible]君

醫學士　佐藤[illegible]君

醫學士　櫻井[illegible]君

ドクトル　佐伯理一郎君

醫學博士　佐[illegible]君

醫學士　榊[illegible]君

ドクトル　保科[illegible]君

醫學士　北村[illegible]君

醫學士　北川乙次郎君

醫學博士　木下[illegible]君

醫學博士　北島[illegible]君

醫學博士　北里柴三郎君

小兒科專門　三浦[illegible]君

理學博士　三[illegible]君

醫學博士　宮本[illegible]君

醫學博士　箕作佳吉君

醫學博士　三宅秀君

[illegible]　三宅[illegible]君

醫學士　宮[illegible]君

ドクトル　水野[illegible]君

伯爵　土方久元君

醫學士　島村[illegible]君

醫學博士　島田[illegible]君

ドクトル　須藤[illegible]君

ミス・ヒロ[illegible]

醫學士　[illegible]川[illegible]君

醫學士　[illegible]野三[illegible]君

醫學博士　[illegible]君

八王子　和田[illegible]君



私立大日本婦人衛生會宇都宮支會園遊會に於て撮影

講演

家庭看護法 (第三) (本會講演前號の續)

醫學博士 三宅秀

佃速記事務所員田路謙子速記

其次は穀類であります、五穀の中でも吾々が平日食して居ります米は、命の綱として居る位ゐでありますから、大層身體を養ふものである、是れさへ食べて居れば他の食物は要らぬと云ふ位に信じて居るのでございます、山間の極くの僻地へ行きましては容易に米の飯を食べることが出來ないで、平日粟や稗ばかり食べて居る人であると、僅かに遠方から貰受けた米を煎じてお粥にして啜らせると、其病人が全快する、若し米の飯まで炊いて食べさせてそれでも病人が死んだと云へば、米の飯まで食べさせたが結局死んだと云うて大に愁傷の意を慰めると云ふ話がある位でありますから、他の藥よりは米の飯が最も藥であると信じて居るのであります、實際吾々の身體は米から出來て居るのですから、米にそれだけの効能があるに違ひない、乃で此米の飯でありますが、米の飯は大概の病人が食べても宜しい、米の飯を禁ずるやうなことは先づ少ないのでありますが、如何にせん病人の方から普通の御飯は厭になることがあります、さう云ふ場合には、飯を小さく握飯に致しまして、是れは日本で昔から遣り來りの方法でありますが、金網の上に載せて兩面から狐色位に燒きまして、香ばしくした燒握飯をお茶漬にして食べさせますると、唯の飯では嫌ふやうな病人でも美味く食べられると云ふことがあります、一寸燒鹽でも加へれば大變に味が宜しく食べられる、是れは香ばしい匂ひと燒鹽などで味を附けて淡白として居る所に瞞されて食べられるのであります、此の方法は俗間て往々致して居る所であります。

それから同じお米でも、昔は陳倉米と云ふのを珍重致しました、陳倉米とは古しから藏に貯へて置いた米で、粘り氣がなく脂氣がなくなつた米で消化が宜しいと云ふことを申して居りました、病人には殊に新米の味の宜いのでなく古米で質の宜いのを食べさせることになつて居りました、是も決して悪いことではありませぬ、併し近年斯う云ふことも段々分析等をして調べて見ると、陳倉米でありましても籾て貯へてある時分には随分永年貯へても――百年以上貯へても不味くはならないものであります、現や三年や五年前の古米を精げて食すると云ふやうなことは、陳倉米でも別段に變りはないのでありますけれども、玄米にして俵の中に入れて置くと年一年に味が悪くなつてパラ〳〵した質のお米に變じて仕舞ひます、さういふのは營養になりませぬ、空しく腹を膨らすばかりのものでありますから余り宜敷はありますまい、常に養生に注意する人は麥飯が消化が宜いと申して居りますが、是は反對て、麥飯は消化が悪いのであります、然るをガサ〳〵した麥飯を食べて消化が宜いと考へて居るのは大なる誤りであります、此事は次の講演をされる大澤博士が綿密に試驗をして、米と麥と何れが消化が宜敷やと云ふやうな事は實際に試驗をされたことでありますから、そのお話をお聞きになるが宜しい、病人に於ても其通りて決して營養にならない、古い米を食べて腹の具合が宜いと云ふのは、麥飯を食べて氣持が宜いと云ふのと同じことで唯腸胃を膨らすだけでありますから、病人には矢張新らしき米を成べく軟らかく炊いて與へるが宜しい、硬い飯は無論いけませぬ。

尚ほ日本でも申して居りますことでありますが、粘り氣の強い新米の美味い米を食べると溜飲に障る、溜飲の人が食べると胸がヤケて宜しくないと云ふことを申して居ります、昔は溜飲になると云ふことは何の事だか分らずにさういふ事を申したのでありますが、今日では有名の高峰讓吉君が發明せられたタカヂヤスターゼと云ふ薬がある、斯う云ふものを用

ゐて居ると溜飲は自から治つて仕舞う、溜飲に隠ると云ふのは間違つた話て、溜飲が起つても巧みな宜しい藥が出來て居りますから、病人でも軟らかき良米を心配せずにお食べになるが宜しい。

茲に御飯を食べさせて惡い病氣があります、それは糖尿病と云ふ病氣でありますが、それは別に機會を見て穀類を禁じて仕舞はなければならぬ場合がありますから、其時に譲つてお話をすることに致します、さういふ病人の食べる献立は只今食物の種類を論じて居る時でなく、病人の種類て食物を別にすることを論ずる時にお話をすることに致します。

西洋では漸く近頃になつて米と云ふものゝ結構なることを知つて來たのでわります、是まで小麥大麥をのみ用ゐて居りましたが、米の結構なものと云ふことは近頃知りました、殊に日本の米などが西洋に行くやうになつてから感じたのてわります、今まては伊太利の米ばかりてありましたが、日本の米を見て驚いたてす、下利の時分にソップて米を炊いて居る、日本では俗間で腹具合が惡いから米の雜炊を炊いて食べると云ふやうなことは多く素人がやつて居ることでわります、餘り手近なことゝて雜炊を食べると云ふやうかことは誠に有觸たことゝでありますが、お米を食べたのが藥になつてピタリト下利が止まつてもまさか米にさう云ふ効能のあるものではないと思つて居りましたが、西洋では近頃氣が附いて下利の時分にお粥のやうなものを拵へたりソップのやうなものを拵へて食べさせるやうになりました、是までお米のことを知りませぬなんだ時分には西洋では專ら大麥を使つて居つたので、大麥を煎じて用ゐて居りました、又サアレップと云ふ草の根がありますが、之を煎じて穀類の代りに食べて居りましたが、日本の米のやうなものが手近にある所では他のものを用ゐずに粥なり雜炊なりを拵へて食べるが一番宜しい。

此粥の事でありますが、病人の食べ物と言へば御飯は廢せお粥か宜いと云ふことは何人でも申すこと

て、病人にお粥は附物のやうに信じて居ります、斯樣なことに附いては古くから日本でも研究した人がありますが、中にも陸軍の病院で研究したのが一番新らしいことのやうであります、其試驗を致しまするのには、粥の極く軟らかいのと、極く薄い粥清と、それから少し軟らかいのと云ふやうに段々軟らかくして、詰り四通りばかりのお粥を拵へて試驗した成績があります、誰の考へでも同じでありますが、粥清と云ふものは滋養の効能ないことは極つて居る「粥清でも」と云ふのは殆ど癒る目的のない病人にセメテ粥清でも啜らせやうと云ふのでありますから、全く粥清で生命を取り止めた事はない、實際に試驗をしても餘り効能はない、粥清から見れば少し濃い所の陸軍で試驗した五分粥七分粥と云ふ名を附けてある其方が宜しい、五分粥と云ふのは粥の割合が米五勺が水半リットルと云ふのを五分粥と名ける、是は恐らく陸軍で附けた名であらうと思ひます、是まて日本では稀い粥を七倍粥とか八倍粥とか申して水の倍數の多いだけ薄くなると云ふ譯であります、即ち倍數の少ないのが硬い粥であります、乃て陸軍の調べました如き七分粥と申すのは米七勺に水が〇、七リットル、それからもう一ッ申せば十分粥と云ふのでありませう、等分になつて居りますのが全粥と申しまして、米一合に水一リットルであります、丁度五分粥の倍であります、ソコデ其試驗をして見た所が、一番消化吸收が宜しくて身體の養生になるのは七分粥である、其次に五分粥である、餘り硬いものも階級が下るし極く薄い所の水分ばかり多いのもいけない、順序は七分粥、五分粥、全粥と云ふ譯であります、其上は軟らかい御飯になるのでありますから、養にならぬのではありませぬが順序を言へば右の通りである。

次にお粥の炊方でありますが、炊方は皆樣御承知でありませうが、私共の此處に申すのは米から煮た方の粥で、所謂煮返しにしたのでは何うしても滋養分が少なくなりますから米から炊かなければなりませ

ぬ、大きな病院ならば凡そ三倍粥位のものを炊いて一番上汁を粥清にして、其次に五分粥位の所を採り、其一番下の硬い所で全粥を取ると云ふやうなことゝて、一釜で二通りも三通りにも取ることが出來ますが、自分の家に病人が出來た時分は此樣に大袈裟にお粥を炊いても皆が喜んで食べる譯でもありませぬから、粥清を拵へる積りなれば充分煮くたらして粥清を採ると云ふやうにしないと一つには不經濟であり、お粥の餘つたのも仕方のないもので、溫め直しても味ひが宜敷ありませぬから成べく量を少なくして炊くが宜しい、病人は何時でも嫌になると食べ殘すものであります、病人がモウ少し食べたいと云ふ位の所で、それではモウ一度煮ませうと言ふやうな所が宜しい粥清を用ゆる程の病人は食氣の乏しき者でありますから内端の方が宜しい、私は兎角病氣でも意地が汚なくて、お粥を拵へて食べますにも喰意地が張つて居りますから、もう少し食べたいが御粥の仕込みが足らないと云ふ其位の所を度として居ります、丁度其位が宜しい、お粥なら幾ら食べても宜しいと言つてもたらふく食べると云ふやうなことでは、却てお粥の爲に役た腹を壞すやうなことになるのであるから、鍋の中に無くなると云ふ所でお仕舞ひにするが宜しい。

今日は此お粥のお話と共に此所で止めて置きます皆樣方に演說の食傷をおさせ申しては濟みませぬから　（完）

＊　＊　＊　＊　＊

第四回看護法講演

醫學博士　三宅秀

今日も穀物の續きでございます、前回には日本の米の御飯と米で拵えたお粥のことを申上げましたが、是れは病人に食べさせまする主なる食物であります、丁度西洋では小麥の粉から拵えた所の麵麭を病人の食用に致しまするが、極く新らしい燒立ての麵麭は粘氣が强くて病人には餘り宜しくない、それから燒古しになりまして、極く乾いてボロ〳〵するや

うな形になりますると、平日健康な人が食べましても美味しくもございませぬし、又餘り宜しくないのであります、極く新らしいのも亦た古くなりましたのも病人のために宜しくない、丁度常に食べて居ります位な麪麭が宜しいとなつて居ります、併し今日燒きました麪麭を其日に食べ盡しませぬでも明日になりましてから彼のトーストと申しまするものに致します、それは麪麭を薄く切つて兩面を火に炙りましたものですが、これは丁度此前に御話を致しました通りに日本で御飯を御握に拵えて炙つて、それに燒鹽を入れて茶漬にすると病人に食べ易いと同じ事で、トーストに致しまして食べますると大變に輕くつて病人には至極食べ易いものとして御座ります、日本人の麪麭に食べ慣れて居りませぬ人でも病氣になりますると云ふと醫者が麪麭を勸める、スルと病人は喜んで食べると云ふ有樣でございまして、病氣の種類に依りましては結構な日本の御飯よりは麪麭の方が必ず食しよい樣に思はれます、それで私は麪麭を食べると云ふことを勸めるのでございます。

それからして麪麭に類した所の菓子の類であります、則ち小麥の粉に砂糖を入れて味を附けました物、又滋養物を附加へて則ち牛乳バタ等を加へて輕く拵えました所の菓子類は、孰れも病人には食べさせまして皆消化が宜しく又營養にもなりますから是れは病人に勸めて食べさせて宜しい、然るに病人に食べさせまする麪麭で唯の病人が食べると云ふと消化が惡くて宜しくないのがある、是はグラハムと云ふ人の名を付けました麪麭でありまして、其中に糠が澤山混つて居りまして、色も黒く見た所がまず〳〵しい、又實際食べてもまずいものであります、併し日本でも白い米の御飯を食べる代りに麥飯を病人に勸めることがあります、丁度此グラハム麪麭と云ふは同じ麪麭の中でも白い麪麭でなくして黒い見苦しい所の麪麭ではあるが、病人に勸めまする場合もありますから、若し醫者が勸めましたならば其指圖に從つて多少まづくても其麪麭を食べるが宜いのであ

ります、併し一體にどの病人に向つても其麵麭を選つて宜いと云ふのではありませぬから、醫者が適當と信じた場合に其糠混りの麵麭を勸めるのでありますから、唯麵麭でさへあればどう云ふ種類の麵麭でも病人が食べて宜いと云ふ譯のものではありませぬ、日本では小麥の粉を麵類に打ち、或は饂飩、素麵と云ふやうな具合に小麥の粉で麵類を打つて食べるやうなことが、ございますが是も普通の食事の出來ませぬ病人には却て饂飩なら食べられるとか、素麵なら旨しく食べられるとか云ふ場合が屢々ございますから、饂飩に致せ、素麵に致せどちらも食べて害のない物でありますが、併し世間では素麵の方は油でのしましたもののゆゑ油氣を含んで居つて宜くないと申しまするけれども、近頃出來まする素麵は決して油を含んで居るやうなそんな下手な拵え樣は致しませぬ、素麵でも以前出來ました品から見ますると、皆品質が良く、上等なものが多うございまするから病人に食べさせても障るやうなことはございませぬ。

序でに蕎麥のことを申しまするが、蕎麥は俗に冷すものである、饂飩は溫めるものであると云ふやうなことを申しまするが、同じ麵類で蕎麥は大變斥けられて居ります、併し果して蕎麥と云ふものは冷し饂飩は溫める効があるか、さう云ふ事はまだ試驗上定つて居らぬ樣でありまする、私も見聞致しませぬ。既に此前に申した通り生の乳の飮めない人が蕎麥湯の樣なものを拵へて、さうして乳に入れて食べると食べよい、又腹を下さないと云ふことを申して置きましたが、その樣な譯で若し蕎麥が果して腹を冷して下利を促すと云ふものであつたならば、蕎麥湯の中に乳を入れて飮めば腹を下さなければならぬ譯でありますが、蕎麥湯と一緒に乳を食べると腹を下さないので、牛乳が飮み易いと云ふことは實際にあるのでございまする、して見ますると蕎麥は冷すと云ふことは或は俗說であつて、取るに足らぬかとも思はれますから、蕎麥幷に饂飩は食べても宜からふと

思ひます。

それから饂飩粉を練つて茹てまして、さうして水飩に拵えて病人に食べさせることがありますが、これは格別食べさして害はありませぬ、又賞美する程の物でもありますまいが、水飩は大きな塊になつて居りまするから、病人が嚙んで食べなければならぬ、それよりは一層麪類に致して饂飩なり素麪なりに造つて食べさせる方が必ず宜からうと思はれますのであります。

それから今一つ、小麥から拵えまするもので麩であります、是れは御承知の通り小麥の麥麩から取るものであります、小麥の麥麩の中には大層身躰を養ふ部分がありますから、平日達者な人が麩を以て拵えた所の調理品を食べましたならば大に身躰の養ひになりませう、又病氣となつて居りまする者が矢張り健康な者と同じ様に麩を食べてそれだけの養ひになるか否は分りませぬ、アロイロナートと云ふものは日本の麩と同じやうなものでありまして、此を藥に致して用ゐる場合があります、これは何と云ふ病人に遣るかと云ふと此前一寸申して置きましたが、米の飯や、或は小麥の粉で拵えた所の麪麭などを食べさすることの出來ぬ彼の糖尿病には、アロイロナートを麪麭に製して食べさせるのであります、結局小麥の粉或は普通の米穀を食べさせて惡い所の病人に其麥麪で拵へた麥のやうな麪麭を御飯の代りにするのであります、全く之を用ゐる場合が極つて居る、何の病人にも食べさせて宜いと云ふ譯ではないのであります。

其他日本で五穀と云ひますると豆も中に這入つて居りますが、豆のことは此次に申します、西洋では病人の食物をば主に小麥で拵え、其次には大麥を使ひます、それから燕麥と云ふ麥を使ひます、彼の英語でオートッと云ふもので喜んで病人に食べさせることになつて居ります、日本で米を用ゐる場合に丁度燕麥を米の代りに用ゐると同じく、燕麥を挽きました粉は誠に輕い消化の宜いものでありまする、小供

や病人等には誠に宜しい、それ故に日本でも容易く燕麥の粉が得られる今日にだては、矢張り西洋の眞似をして斯う云ふものを病人に食べさせる方が宜しいのであります。

それから今一つは玉蜀黍の粉でありまする、是は御承知の通り日本では餘り是まで用ゐなかつた物でありますけれども、玉蜀黍の粉は二通ありまして、一つは葛のやうになつて居りまするコーンスターチ、一つは饂飩粉と同じ樣になつて居ります、コーンフラワ、此二つに分けまして孰れも病人には宜しいのであります、日本では此コーンスターチに當ります所の物を穀物から採らずに蔓草なる葛の根から採つた所の葛粉(葛のことであります)或は馬鈴薯、其他車前と云ふものから採りました所の山慈姑——葛片栗などと云ふもので病人の食物を造つて居ります、それ故に穀物の中で御話を致しますると、話しが橫に外れるやうでありますが、歐羅巴では此コーンスターチと云ふものを作つて居ります、それは穀物の中の玉蜀黍から採つてそれを碾いて粉となし又は水干して病人の食物にするのであります、丁度日本の葛、片栗と同じやうなものであります、これは大變用法の廣いものであります、御承知の通り葛は稀く溶かして葛湯にして食べまするし、固ければ葛煉にして食べまするし、又最う少し固くして中に砂糖などを入れて葛餅杯の菓子に造りまする、彼の水仙卷などと云ふものは葛から製します、暑氣の頃食します、葛素麵等と云ふものは自分が好きでありますから種々の御菓子をかつぎ出す樣でありまするが、葛から拵えたものは唯食べることが旨しいばかりでなく、養ひになることも澤山ありますから病人も斯う云ふ物を好んで食べるし、又病氣に障りませぬ以上はさう云ふ物を使ひますると養ひになり、至極病人の食料として宜しいものであります、其他穀類ではございませぬけれども、歐羅巴では西國米、テピオカ等と云ふ粉質の食物があります、此セゴであるとかテピオカと云ふ樣なものは、丁度彼の葛片栗と

同じ様なものでありまして、唯作り出す物が他の物から採るの差いがありますけれども、出來上つた所の品物は同じ様であります、セゴと云ふものは一寸誰も品物では御承知の方が澤山ありますけれども、どんなものであるか御氣注きのない方も多うございませうが、こちらでは沖縄から澤山にこれを採ります、則ち蘇鐵の心から採るのであります、蘇鐵の心には最初生の時は毒がありまして、生の中に食べますると毒になりますが、それを輪切りに切つてそれから屢々水を取り代へて晒上げて粉に製しますると、立派なる葛、片栗と同じ様なものが出來ます、是れがセーゴの製方であります、日本には其他にも蕨粉の様な立派なものが澤山に採れます、それに西洋では常に使はれて居るものでも此方では餘り使つて居らない物もありまする、何品でも其性質に於て同じ様でありますればそれで口に合ふ様な物をこしらへて病人を養ひますると、極めて便利にして且つ經濟の法であります

（未完）

家庭衛生に關し婦人方への冀望（本會講演）

醫學士　田村光顯
同事務所員速記

宮殿下を初め貴婦人方の御集りの所に於て、今回私が詰らぬ御話を申上ることを得たのは、私の最も光榮と存じます、私は一躰演説と云ふ様なことは余りしたことは御座いませぬ、甚だ不馴で御座います、何か申述ろと云ふことで御座いますから、早速御受を致しましたが、演説だの講演だのと云ふ高慢なことては御座いませぬ、唯一個の訥辯の男が所見を饒舌と云ふだけのことで御座います。

日本も段々文明の域に進みまして、諸事大に整頓し且つ進歩して參りました、從つて學問なども最近四五年この方と云ふものは、一層著しき進歩をなし、且つ此醫學並に衛生のことに於ては殆ど歐羅巴諸國にもヒケを取らないと云ふても宜しい位の域に達して參りました、實に結搆のことゝて喜ばしきことゝてあり

ます、學術が進み世の中が文明に進んで參りますに從つて、人々が己れの身が大切であると云ふことを知つて、段々各自の衛生と云ふことを氣を付ける樣になります、自分の身を大切にすることは最も結構のことで「健康の身體に健康の精神が宿る」と云ふ格言がありますが、如何にも病身では立派な考へを出す氣遣ひもなし、卓絶した議論を出すことも出來ますまい、成程身體虛弱で神經質の怜悧らしい人もありますが、それは本當に怜悧な譯ではなく、醫者の方で云へば過敏と云うて、本當の怜悧の中に入れることは出來ませぬ、デ衛生と云ふことに就ては此會に於ても隨分もう既に諸先生方が御辯じになりましたから、大概申しつくしてありませうが、衛生と云ふことは、何種にも分てありまして社會一般に申すのは一般公衆衛生、自分一個の身に對して氣を付けることを個人の衛生、それから軍人に就て衛生上の注意をすることを軍人衛生と云ひ、それから職工場などについて工場衛生と云ふ樣に色々に別れて居ります、デ今日一寸一二の私の希望で御座いますが、其希望を述べたいと思ふのは、公衆衛生とか、軍人衛生とか、工場衛生と云ふ樣な專門かゝつたことでなくして、個人衛生の中の家庭の衛生、それなれば吾々の身に適切でもあるし必要でもあるから、一寸卑近なることを簡短に申上げて御暇を願はふと思ひます。

個人の衛生と云ふことは、畢竟一個人が自分の身を大事にし、自分の生命を大切にすることで、決して難かしいことではない、誰でも長壽をしたい、夭く死にたくはない、身體を大事にすると云ふことは敢て難かしいことではないが、唯大事にすると云ふことばかりでは分らない、身を大事にすると云へば戶外に出ると風邪を引くといかぬから、屋内に居るが善いと云ふので、或は小供等が寒い思をしてはいけぬと云うて無暗に厚着をさせ、暖くして置くと云ふのはそれでは、眞の衛生を誤つてしまふので、從つて幾分かの學術上の意味に適はなければならぬ、

學術上の意義に適ふやうに身体を大事にすると云ふことになれば教育と云ふことが必要です、デ此公衆衛生とか軍人衛生とか個人衛生とか別れては居りますが、これ等を完全ならしむるのは畢竟個人衛生が完全しなければ出來ないことで、幾ら世間が八釜しく云うてもそれは出來ない、例へば傳染病が多い時に、政府では非常な熱心を以て傳染病の豫防を盡力せられるけれども、個人の衛生が不注意で無學で而も無教育であれば、法を潜つても色々な事を爲る、例へば「掃除をしろ」と云へば「うるさい」と云ひ「斯う云ふ物を食べてはならん」と云へば「大きな御世話だ」と云うて食べる、さう云ふ樣なことでは政府が幾ら熱心をしてやらうとしても中々一般公衆衛生並にその一般に對する衛生の完全を期することは難かしいのであります、私は能く覺えて居りませぬが、明治三十一年で御座いましたか二年で御座いましたか、中央政府並に各府縣なとの高級官衙のみデ衛生の爲に支出した金は合計百三十何万圓と云ふものであります、而してそれが下級の官衙、下級の町村に至るまで、又一戸として支出したものを加へましたならば何百万圓と云ふことになるでありませう、これを歐羅巴の衛生などに較べましたならば誠に僅少なるものでありませう、殆ど論ずるに足らぬかも知れませぬ、然しながら日本の程度としては中々小さくない金である、それを支出して居つて、それで若し此金が生きて行くか死んで行くかと云へば、個人衛生が十分に行はれませぬければ皆それは死んでしまふのであります、どうしても個人衛生を先に進めなければならぬと云ふことは最も必要である、

デ此個人衛生と云ふことに對して之れならば誰が一番の責任者であるが、自分等の身体は自分が責任者ではあるが、差詰め當局の責任者は誰であるかと云へば、私は其責任を御婦人方に歸さなければなりませぬ、何故なれば御婦人方はつまり家庭を形造つて居る、其の主宰者——即ち主權者である、因て其主權者が責任を以て家庭の衛生を進めなければ決して

完全のものが出來ることはない、尤も此處に御集りの御方はそんなことは疾くに御承知で、否寧ろ御着眼があつたからこそ斯様な立派な會を起されたので御座いませう、兎に角一般婦人と云ふものが個人並に家庭の衛生の責任者であると思ひます、男子と云ふ者は重に外に出て働く者で、内のことには關與つて居ることは出來ない、從て家の中の衛生のことには勿論婦人がやらなければならない、少し余事に渉る様でありますが、婦人方で政治を談じたり色々なさる方があります、決して私はそれは惡い事ではないと思ふ、余閑があれば隨分なさるが宜しい、けれども先づ第一の責任を盡して後にしなければならない、家庭のことを抛て置いて、其他のことに奔走することは、私は余り贊成が出來ない、自分の第一の責任を投出すのであるからで御座います、畢竟云ふと男子は外に働き婦人は内を務める、若し男が自分が當然働かなければならない責任を捨てゝ臺所のことをして居れば、余り見つとも宜いことではありますまい、又婦人が内のことを構はずして外に出て奔走して居つてはこれ亦褒めたことではない、詰り役目が違ふからであります、家庭の整理といふものは最も婦人に關係を有するのであります。

デ此家庭の整理と云ふことは、何が一番必要であると云ふなれば、私は第一に指を臺所の整理に屈する、臺所の整理が、つかなければ一家の衛生と云ふものは決して行はれるものではない、諺にも臺所は其家の主婦の書齋であると云うて居る、故に臺所が十分に整へば凡ての點が屆くのである、主婦が臺所に出で諸事奇麗で清潔になつて居れば、これが抑々衛生の第一である、日本では臺所のことは即ち下婢がやつて居りますが、これは私の考へるのに此れは間違であつて下婢は主婦の助手に止まるものであると思ふ、決して下婢が裁斷すべきものではない、どうしても御婦人方が臺所の整理を爲さることを希望せざるを得ない、デ若し御婦人方が自分で臺所の注意をなさるならば、同じ材料を用ゐて同じ手間でさうし

て旨しいものが食べられる、下女等に任して置けば決して旨いものは食べられない、旨いと云ふことはどう云ふことかと申しますれば、これが大に衞生上に關係がある、旨いと感ずるものを食ふて居れば消化が宜い、まずいと感ずるものは消化が惡い、自分の口に合ふたものは大變に消化が宜しい、人に因つて蕎麥を大變食べても直きに腹が空く又た酸ものゝ好きな人は杏を百食べても中らないなぞと云ふとを云ふ人があります此れも一理あるとてありますそれは口に合ふからであります、だから口に合ふ樣においしく拵らへて食べると云ふ事が、衞生の點に於て必要であります、所が此旨しく拵へると云ふことが中々難かしい、主婦が主宰する時分には成べく生理に適ふ樣に爲さる事も出來るし亦た左樣でなければならぬ、例令ば人間と云ふものは色々のものを食ふ、肉食もすれば穀食と云ふて穀物も食ふ、色々食ふものは別れて居るが人間は何でも食べる、故にその調理は色々の法に適つて居らなければはならない、蛋白質が幾ら要る、含水炭素が幾ら必要である、含水炭素とは米とか馬鈴薯とかの類を指して云ふのであります、又其外彼の野菜は幾らと云ふ樣に細かく調べなければならない、然るを簡單に召使の下婢にのみ任して置ては學問上の生理に叶ふた調理をすることはとても難かしい、喩へて云ふなれば同じ肉を食ふとしても、痩せた動物の肉なれば

窒素分	二一、〇〇
脂肪	三、〇〇
水	七五、九
灰	一、三

肥へた動物の肉であればどうであるかと云へと

窒素分	一七、五
脂肪	二三、〇
水	五九、五
灰	〇、五

又鷄卵であるとか牛乳であるとか、それは何方が身体に宜しいかと云へば鷄卵は

窒素分	一三、〇
脂肪	一二、一
含水炭素	〇、一

水	七四、九
灰	一、〇

牛乳なれば

窒素分	四、〇
脂肪	三、〇
含水炭素	五、〇
水	八七、二
灰	〇、八

又米であれば

窒素分	九、〇
脂肪	〇、五
含水炭素	七五、〇
木纖維	一、〇
水	一四、五
灰分	一、〇

これは無論百分比例にしたのであります、これを適當に應用して――人間の取るべきだけの食料を取る樣に之れを調理すると、從つて自分に旨しくもあり、衞生の道理にも適ふのであります。

それからして其等のことを爲るには、自分で以て凡ての事をしなければならない、第一に食料品の買出し、食料品の買出しも自分でしなければならない、それが爲に運動にもなる、從來の日本の風習で見れば、中流以上の奧樣などは決して外に出ない、且つ買物に出ることは恥かしいことの樣に考へて居る、さうして自分は家に引込で居つて下婢を使つて調理をさせて居る、調理の時分には自分は少しも立會はないで單に食ふと云ふのみでは甚だ宜くない、自分で出て行つて物を買集め調理をしますれば、第一一家の經濟になり、良い物を得られ衞生上にも宜しい、運動にもなるから自身の衞生にも宜しい、食事は人間の最大快樂であります、殊に夕飯の如きは一家の快樂の首席を占めて居るものである、其快樂の材料を供給するのであるから決して恥かしきことはない、自分で材料を買集めるは面白きことである、自分で手を下してやれば、第一旨くも出來る、又自分で手を下してやれば一家内の男子も其家の主婦に對して外に出て食事をすると云ふことも少なくなる、宅に歸つて食事をする樣になる、外に出て或は

飲み、或は食ふと云ふことになれば、男子の健康をも害するが、家に歸て一定時に學問上に適ふた一定の食事をすることになれば、非常な健康の助になります、故にこれ等は最も必要なことであります、詰り一家の臺所に對する所の注意であります、左樣なるとそれから凡てのことが規律だつて宜からうと思ひます、

私は此他に願ひたいことは家の掃除の監督であります、これは大變必要のことであらうと思ひます、家の主婦が掃除に注意をなし、清潔法に注意すると云ふことになれば、立派に整頓する、これを女中などに任せて置けば、四角の座敷を圓く掃くと云ふ樣な譯で隅々には埃が殘つて居ると云ふ樣な事になる、其外に掃除の器具で最も面白くないのは拂塵でありますこれは、私は余り掃除と云ふことにはなるまいと思ふ、何故なれば埃が下に沈着して居るのを拂塵ではたくと埃は上に舞上る、舞上つている中に掃除を終るから、埃は好い加減の時分に又下に沈むア、云ふ風な埃を舞はすだけでは掃除にはならない、斯う云ふ場合は何卒雜巾か何かで拭き取つて貰ひたい、單に拂塵を掛けて下に積つて居るのを叩いただけでは、少しも掃除をしたのにはなるまいと思ひます、

其他下水です、此處で申すのは市街のではなく邸内小下水なり此の下水は家屋の周圍にある所のもの、これ等は吾々も皆記憶がありますが、奇麗にせよと云ふことは命じても、使はれる人はなか／＼主人の云ふ通りにはならない、其場に主人が見て居るのと居ないのでは大變に違ふ、何卒八釜しく云ふて掃除を爲さる樣にしたい、これは大變有益のことであります、先頃歐羅巴の伯林で御座いますが、上水の出來た爲めに傳染病が多少少なくなつたと云ふことで御座いましたが、全く其迹を絕つと云ふ譯には行かなかつた、然るに其後に大仕掛の下水が出來上つてから、傳染病が著しく減じた、殆ど迹を絕つたと云ふことで御座います、尤もこれは家宅内のみなら

ず、市街悉くのことで御座いますが、幾ら政府で市内の下水を掃除しやうが奇麗に仕様が邸内の下水が穢くては仕方ないから、個人〳〵は宜しく邸宅内の掃除をして、然る後に市内一般に及ぼす様にするが順當であらうと思ひます。

其次に御望み申したいことは、これは私は余り知らないことでありますが、氣の付いたことでありますから一寸御相談を申しますが、小供の教育のことで御座います、小供の教育は最も御婦人方の最大任務であります、且つ發育時期であるから一生身体の健康に大關係ある事と信じます。

デ今日では皆學校に御遣りになりますから、學校に頼む、所が學校の成蹟に因つて出來が惡いと云ふので、家に歸つてピシ〳〵虐める、小さい頭にさう詰込めるものでないから、小供は大變苦しむ、學校から歸ると復習させる位は宜しいがそれ以上のことを爲せるです、これは結局の所小供に利益あることではない、今日の學校の課程と云ふものは、今日の進歩したる學問上の經驗により其範圍内に於て此位で宜しいと云ふことがチヤンと割當てゝある、之を家に歸つて又其上に虐めると徒らに腦力を消費させるのみで、小供の發達を害することは明かであります、明治の十七八年の頃でありましたが、幼稚園と云ふものが段々出來て來た時分の話しと思ひますが、或る教育家に聞きました所に因ると、小學校の兒童で、幼稚園から來た小供は一年級二年級には大變能く出來るが、高等科に行くと幼稚園から來たものは却て惡くなる、突然に一年級の小學校に這入つた者の方が成蹟が善いと云ふ話しであつた、それは幼稚園の性質を知らないで、小供の腦力を消費することが多かつたものだから肝要な時に發達が鈍くなる、今日では斯う云ふ馬鹿氣た教育をする人はありますまいが、以前はそんなことがあつた、故に小供が家に歸りと頻りに虐めると云ふ様なことは、決して爲さらないのが宜しいのであります、

其他女の兒の教育に就て申さなければならないのは

遊戯の仕込です、此等は無謀極まる話してあります、怪げな文章――其の文章を解することも出來ない小供に其文を暗誦させ、歌を謡はせる、學校以外に腦の中に斯様なことまで入れると云ふことは最も考ふべきことであらうと思ふ、音樂と云ふことは必要なものでありますが、今日遣つて居る遊戯の如きは音樂と認むることは出來ない、それ等のことを教へるのは、一家の主婦たるべき所の人が女の子を育てる所の上に就て大に考ふ可き事と思ふ、慰みにするのは宜しいでありませうが、オサライでもあると學校を休ませるまでも其方に力を盡すと云ふ様な有様、これ等は何卒改める様に致したい。

其他に小供の着物を飾ることです、親の身になれば小供に綺麗の着物を着せたいのであります、小供も喜ぶのでありますけれども、美い着物を着れば慾が出て、これは美い着物であるから汚してはならない、きたなくしては惜いと云ふことになる、着物を惜めば身躰の運動を害することになり、袖の長い着物などは運動を妨ぐること多い、殊に小供の發達の盛りの時分に大きい帯を〆めるなども宜しくない、こんなことで小供に立派なる身躰を得やうと云ふのは難かしい注文です、一定の發育時期でありますから、子供をして成べく活潑の運動をなさしめる様に致し、身躰の壯健に出來上る様に注意せねばならぬ、何卒これからは身躰の運動を障げない限りの度合にして置てもらいたいものです此處に御出の御方は御存じのことで私が申上ぐるまでもありませぬが、然しながら又一個の希望として一般に對して述べて置きます。

其他小供の育て方に就て注意すべきことは、子守を置き乳母を置くこと、これは必要のことでありませうけれども、子守や乳母と云ふものは甚だ衛生上の總てに教育のある者かと云へは决して左様でない、甚だ無教育極まる者が多い、さう云ふ者に小供を任せて置くのは甚だ危險である、則ち小供が泣くと云ふと直ぐに駄菓子の様な物を與へる事もある又言ふ

て聞せることも甚だ卑しいことを云ふて聞かす、從つて良いことは覺えない、此等は必らず腦の發達に妨げがあらうと思ふ、先入主となると云ふことがありますから、此等も余程注意を爲さつて居らないと、腦の發達の上に大に關係があらうと思ひます、

それから其他に尙ほ望みたいのは、今の所では行はれ惡いか如れませぬが、家庭内に音樂を導くと云ふこと、音樂は大槪宜しいものです、私共は余り知りませぬが、高尙なる音樂と云ふものは極めて必要であります、音樂を家庭に導いて、一日働き勞れたのを此音樂に因つて慰むると云ふは非常に宜いことゝ思ふ、一家内には何卒音樂を導いて、和氣藹然たる家庭を作りたいと存じます、

モウ其位で別に御注意申すことにありませぬが、尙ほ日本人の好みとして、人が人に對して醜美の觀念が或は少しく違つて居らうと思ふ、其ことを少し申したい、詰り男子が青年に達し、二十四五歲になり、女子は二十歲前後で結婚をする、其時分に同じなれば奇麗なのが宜しいけれども、奇麗と云ふことが日本人の考へに於て大小間違つて居ると思ふ、婦人に對して男子が「あの婦人は奇麗である」と云ふのはどう云ふので有るかと云へば、答て曰く背は細そりと衿の拔上つた肩のコケたのが美であると云ふ、これは醫者の方から云へば肺病になるべき素質を有する人にして極めて虛弱の身躰です、昔から美人の形容を寫す文句の内に細腰輕羅に堪へずなどゝ云ふことがあります、是れは薄い着物にも堪へないと云ふことでせうが、そんな不具の樣なものは仕方がない、日本人の理想の美人と云ふのはそんなものです、手もなく肺病患者が宜しいと云ふので、未來の肺病患者になるべき者が美人であると云ふのです、それから婦人の方の男子に對して美と云ふのを聞いてもこれと同じ樣な譯です、私共には頓と分らんが然しながら先づ思ふに此如き美の觀念は何處から來したるもので有るかわからないが、演劇なども大に與つて居る事ならんと思はれます形を細そりと拵へて、

女形には大變宜いとか云ふて居る又た美男の形容に云ふ言語で女子にしても見まほしきなそと云ふ語ありこれは決して衛生上の眼から見ると美ではない、最もまずいものです、直ちに破易い直ちに病氣に罹り易いものでありますから、斯う云ふ男を美とすることは何卒止めて貰ひたい、必竟さう云ふ好尚を以て出來た小供は必ず弱い躰格になる、必らず後になれば立派な病人になる人を產み出す樣になる、故に躰質の立派なものを撰ぶことが大切であります。

其他尚ほ結婚などに對しての注意は、遺傳と云ふものを余程注意しなければならんと思ふ、遺傳を注意しないで結婚すると大なる過ちがあらうと思ふ、若し自分の家が肺結核の家で有るとか腺病の系統なれば、成べく子孫をして此の系統を薄くせしめなければならぬ、徒らに結婚をして仕舞つて、若しこちらが精神病者の系統があり先方も精神病者の系統があれば、其間に出來た小供は精神病に最も適した所の小供が出來る、肺病も其通りである、故に系統を紏して遺傳性の病氣に遠ざかる樣にと云ふことを考へなければならぬ、此等は父たり母たりする者の最も注意をしなければならぬ事柄である。

其他述べることは御座いませぬが、只今三宅先生が御述べになりました看護のことでありますが、看護のことは一家の主婦が是非心得て居らなければならないことで、看護婦と云ふ者があるからこれに任して置けば宜しい樣なものではありますが、日本の狀態では看護婦と云ふものは一個の金で雇入るゝ雇人でありますが、金で雇入れた冷たき手に看護されると、一家の中の暖き主婦の手に看護されるとは非常な違ひがあらうと思ふ、これは博士が十分御述べになつたから私は言ふ必要はないと思ひますが、兎に角これのことは一家の主婦たる人が最も注意して宜しかるべきことゝ思ひますから、私の考へを述べて置きます、上の好む所は下これより甚しきはなし、此處に御出席の御婦人方が行つて下されば、下々の者迄一般の家庭の改良をすることが出來るだらうと云ふ

様な事から、これに就て一條の希望を述べましたのであります。

＊　＊　＊　＊　※

●箴　言

養生の害二あり。元氣をへらす一なり。元氣を滯らしむる二なり。飲食色慾勞働を過せば元氣やぶれてへる。飲食安逸睡眠を過せば、滯りてふさがる、耗ると滯ると皆、元氣をそこなふ。

高崎支會講演

食餌衛生に就て（於高崎支會）

（前號の續）

荘司森之助

澤庵漬は大根の大小によりまして種々ありますれど、中等大の澤庵にて通常大に切りまして、長さ一寸五分幅さ五分厚さ二分の切目と致せば二匁ござります、此吸收養分を算出すれば二、二一溫量を得ます、通常の人は、四切位を適度と致せば、總價は八、八溫量を得ます。

菜漬は種々の菜がござりまして、其成分も異なりますれど、大なる差がござりませぬから、多く用ひられまする、三河島菜の漬物として申上げます、其成分を百分比例にて申せば、

	水分	蛋白質	脂肪	含水炭素物	纖維	灰分
菜漬	九一、二五	二、二一	〇、三一	三、五二	二、二三	〇、三四

通常澤庵漬と共に御菜皿に附けまするに、菜漬五匁を要します、これは通常商家及び中等の家の風習位に致しましたのです、此吸收養分のみを算出すれば五溫量を得ます。

通常漬物には醬油を御注なさる樣でござりますれば、醬油のことを申上げます。

醬油にも、製造家の異なるに從て、種々ありますれども、中等度の物を申上げまするど、其成分は百分比例にて。

	水分	蛋白質	含水炭素	灰分
醬油	六三、九七	八、四七	三、七六	二六、九四

之を香の物に注けまするには約一匁を要すれども、

實際に攝取致しまするのは、其半量五分位である樣に思ひます、其發價を吸收量にて申せば一溫量となります。

此の菜皿にのせたる澤庵、菜漬及醬油の發價を合計すれば、一四、八溫量になります。

これて朝食を終はるものと假定し皆樣の中等量と思ひまする處によれば。

米飯	三碗	四九五、〇
味噌汁	一碗	六九、五
香の物	一皿	一四、八
計		五七九、三溫量

勞働する人は飯、汁、菜など、これよりなほ多分に攝らねばならぬ事は、己に御承知の事でありましよふ、若し御自身の事に就て御調べなさろふと思はるる御方は、以上の諸表に就て御精算なされますれば、御解りの事と存じます。

右の外近頃牛乳鷄卵などを滋養物として、食物の外に召上らるゝ樣でありまするから、之を申上げます。

乳は乳漿と稱する液の中に、小脂滴の浮びたるものと、乳の色の白さは之れが爲めであります、然るに產前產後の乳は、御承知の通り、其色多少の黃色を帶び、且つ長き糸の如きもの浮んで居ります、之を飲みますると下痢を起すことあります、又た母が病に罹りますれば、血球や膿球等の混入することもあります、其他尙ほ身體の中の老廢物を含むこともあります、鮮しき乳の反應は、酸性とあるかり性との二樣ありますけれども、あるかり性の乳は少暫にして次第に酸性に反應する樣になります、こは細菌と申してまことに小さきバチルスがありまして、乳の中にある乳糖を乳酸に變化する爲です、久しき後には乳は必ず凝固致します、こは乳酸の乾酪素を沈澱せしむる爲です。

乳の成分を概算百分比例にて申上げまするど(古川、丸山、田原氏)

	水分	蛋白	脂肪	乳糖	灰分
日本人乳	八七、八	一、五	三、〇	七、六	〇、一
在日本牛乳	八六、四	三、七	四、〇	五、二	〇、七
牛乳	八七、四	三、四	三、二	四、八	〇、七

人乳は牛乳に比較致しますると、蛋白質及脂肪は少けれど、乳糖は多いよふです、これ小兒を養育するときに注意すべきことです。

乳も亦た吾人の體中に攝りまして、皆々吸收致されません、一部分は尿となりて體外に排泄されます、これ小兒の母乳のみを飲むときでも、尿の出るので御解りでござりましよふ、其損失量は乳を飲みし量によりて異なりますれど、平均數の百分比例にて申せば（ルブナル氏）

	蛋白分	脂肪分	乳糖
損失量	七、〇	七、一	〇

てあります。

通常皆樣の御用ひになる量は各異なりますれども、五勺乃至二合位迄（病氣若くは小兒の養育は別として）ありますから、其中等量一日一合つゝ御飲みなさることゝ致して、其養價を算出すれば、

	蛋白質	脂肪	乳糖	溫量
在日本牛乳一合	六、一九	六、六九	九、三六	一一二、

故に米飯若くは麥飯（七分三分）一碗の養價にも及びませぬのです、然るに世間にては滋養になるとて、中等以上の人は皆好んで召し上られまするが、健康の御方は適當の運動をなされまして、飯の一碗も餘分に召上られた方が、却て牛乳飲むより宜敷樣に思はれます、然れども病氣に罹りまするとその樣に行きませぬから、止むを得ず、牛乳を攝らねばならぬのであります、

坊間にて販賣致しまする、稠厚牛乳と稱するものは、これまた諸家に稱用せらるゝ處のものであります、且つ乳の不足の御方は子供に御用ひなさる樣でありますから、之をも附け加へて申上げ置きます、其成分を百分比例にて申せば（田原氏）

	水分	蛋白分	脂肪	乳糖	蔗糖	灰分
稠乳	三一、三二	八、三九	九、四六	七、六五	四一、二九	一、八八

之を用ひまするには、湯を注き淡しめて飲みまする、其分量は各人に由て異なるよふてありますれと、醫家にて患者に與ふる樣にするには、稠厚牛乳二十分溫湯八十分に致して用ゆるのが、濃からず淡からず恰度宜敷き樣に思ひます、この製したる一合の養價

を申上げますると

	蛋白分	脂肪	乳糖	蔗糖	温量
稀薄煉乳一合	二、八一	三、一七	二、七五	一四、八六	一一〇

それでありますから、牛乳一合と同價を需めまするには、一合二勺ばかりを攝らねばならぬ樣でありますけれども此ものは、生牛乳と異なりまして、蔗糖が餘分に混て居りまするから、澤山に召上られますると胃を害ふことがあります、

凡て乳の養になりまするのは、脂肪であります、だから牛乳などの試驗にも多くは之を見るのです、そうして脂肪の量は春夏に少なく、七月より十月に至る間は其量漸々加はり、十二月一月には再ひ其量を減すると申します、且つ一搾りの間にても初めのものより後のものは少なく、朝乳は晩乳より少なくありますから、御飲みなさるには晩乳の方が宜しきやうに思はれます、けれども搾乳所にても種々の事を致しまするから、必ずこふとは申されません、

乳を貯へ置きまするには、煮沸すれば永く腐敗致さない樣であります、ソクスレット氏の器械は宜敷ありまする又冷却し置くも久しきに耐ゆるようです俗に腐敗を止むる爲め水楊酸を加ふる人がありますれど宜しくありません、

（以下次號）

寄書

蚊と「マラリア」

醫學士　竹中成憲

乳糜尿と稱する病あり小便牛乳の如し青森縣にも時々之を發見するも最も多きは四國、九州地方にして其原因は血液中に系狀虫と稱する虫の幼虫の寄生するに因る、此虫は患者の眠るとき同人の血を採りて撿すれば之を視る事を得夜間の血液中に居るを通例とすれども患者若し夜間床に就かず夜を晝の如くに暮し晝間眠に就くときは晝間得る所の血液中に本虫を視る奇妙奇的烈の虫なり。此病に罹りたるもの蚊に

刺さるゝときは蚊の躰内に本虫移り入り其蚊、他人を刺すときは其他人に本病を傳染せしとは支那人に實驗して有名なる「マンソン」氏の言出せし學說なり、

佛國の軍醫「ラフエーラン」氏（實はラブラン）は明治十四年「マラリヤ」其輕きものは例の瘧是也）の原因を研究して其細菌にあらずして一の原虫（赤痢の一原因も亦原虫なり）なる事を知れり「マラリア、プラスモヂウム」是なり今は其名の不穩當を稱ふるもの多く現今は之を「ヘム、アメーバ」といふ「血液アメーバ」といふ意にして「アメーバ」は原虫と譯するを以て「血液原虫」と稱すべし

予は舊記に據りゲルハルト氏の「マラリア」患者の血液を採り之を健者に注射して「マラリア」の發生するを證せしを思ひ又「マラリア」の原因の原虫なる事を信じ其血中に在るを識り思へらく「マラリア」は必らず乳糜尿の如く蚊に因て人に傳染すべしと即ち明治三十一年四月予札幌に在るの日此の私見を北海道醫事衛生講談會の集會席上に於て口演せり翌三十二年「コッホ」博士の物せられたるものゝ反譯を細菌學雜誌（二月二十五日）に讀み遇然私見の正しかりし事を喜びたりし案するに蚊の傳染說はランチヱー氏の創說にて蚊を「イタリヤ」語にて「サンサリ」といふと殊に獨逸書に記す所に據て見れば初め「イタリヤ」語にて發表せしものと思はるコッホ博士に先ち之を世に紹介せし人數名あり予の考は是等諸氏に關係なく起りしなりペスト蚊傳說あり

爾來「蚊とマラリア」の關係一般に信ぜられて都築氏大町氏等は北海道及び臺灣に之か研究をせられ予の舊知羽鳥氏木下氏等は臺灣に其取調に從事せらるは斯道の爲め賀すべき事なり

此頃臺灣基隆兵營に於て明治三十四年十月本洲（内地）より新來せる兵士に蚊に刺さるゝ事なくして「マラリア」に感染するや否やの試驗を爲しつゝあり其兵士の營舍は悉く布片にて窓を閉ぢ蚊の入る事能はざらしめ外出するものも布片にて覆面せしむ

在臺灣臺北の辱交山田游淑君予に書を寄せ同時に臺灣日々新報(三十五年一月一月廿四日)を惠送せらる其記事左の如し

△臺灣地方病調査委員會にては木下嘉七郎氏主任となりて一昨年以來專らアノフエレスの研究に從事し昨年中其研究成績として肉又蚊第一回報告を公にし引續き全島に向つて蚊の蒐集を依賴し目下只管其調査に從事せりと云ふ大成の日近きにあるを知るべし

△基隆一大隊の防蚊營舍は其後引續き實驗中にして全員壹百二十餘名の中未だ一人麻剌里亞患者を出さず何人も其意外の結果に驚かざるものなしと云ふ此一事を以て確かに多年學者間の一大疑問たりし麻剌里亞の病原は解決せられたりと云ふべし

△先頃麻剌里亞調査の爲め渡臺せる都築陸軍大學校教官は本島に於てアノフエレスの種類三種を發見せりと云ふ而して專賣局衞生試驗部の羽鳥囑托は嘗て二種の發見を報告せり此の二種は彼の三種と同種なるべきや又各別種にして共に四種或は五種と爲るやも未だ知るべからず一日も早く都築氏の報告の世に公にせられんことを望む

△英領南洋のフヰヂー島總督は此頃麻剌里亞豫防の手段として島內在住の歐洲人に左の如き諭達を發せり曰く

(一) 家屋の構造及蚊帳衣服等に依りて力めて蚊の刺を避くべし

(二) 土人の血液中には麻剌里亞寄生物を含有する者多し故に成るべく土人の住居に近接すべからず

(三) 已に麻剌里亞に罹れる病者は蚊に刺れざる樣注意すべし

(四) 蚊仔の棲息する汚水溜は之を埋塡し又は乾涸せしめ或は石油を注ぐべしと之れ眞に然るべき事なり本島に在りても既に今日の如く學說の確められたる以上は北筋に於て相當の取締法を發布して可なり殊に先づ最も注意すべきは公私立の病院に於て麻剌里亞患者と同室に收容するが如きは危險の最も甚だしきものなり

△伊太利サルデニヤ島の北西端に於けるアシナチと稱する小島は囚徒のみを收容する處なるが麻剌里亞の發生多きを以て之を豫防せんが爲めに蚊の幼虫を驅除し囚徒に蚊帳を與へたるに其の効果空しからず春季に於いて百名近くの患者ありしもの漸次減少して僅かに六名の患者なりしと云ふ是等も亦大に參考とすべき事實なり

目下此の如く「マラリア」の原因として蚊に重きを置き殆んど其以外に「マラリヤ」の侵入門なきが如く說きつゝあり然れども予を以てすれば之を以て只一の原因とするは誤れり予は「マラリア」は呼吸器よりも消化器よりも來り得るものと信ず職を臺灣の衞戍に奉じ「マラリア療法」の好著ある畏友陸軍三等軍醫正荒井多門君の如きは臺灣の「マラリア」の蚊に關係なき事を述ぶ其消化器よりするもの實例は左の如し

(例)我天保五年(四一八三四年)八百人の兵卒アルヂーダル地方よりマルセイユ(マルセル港)に輸送せられ船は三艘にして全時に發

せり其結果左の如し

〇六百八十人を載せたる第一號船第二號船は無事

〇第三號船には一百二十人乘りなりしが航海中九十八人「マラリア」に罹り内十三人死せり而して同船乘込船員は無事えし

〇原因を取調べたるに左の如し

第一號船第二號船及第三號船員使川の水は眞水なりし

第三號船兵卒の水は沼附近の水を汲みありしなり（一八六九年四月の英國醫事雜誌所載）

〇此場合に於て蚊に關係なきや明なり

此記事は拙著「小内科學」にも收容し置けり上記荒井氏は此引例を價値なきものとせられたり呼吸器よりするの證明は容易にあらず然れども絶對的難きにあらず

況んや蚊の絶對的居らざる時候に於て「マラリア」の新發生あるは平生の事實なるに於てをや蚊の發生期に「マラリア」の多きの理由の一は夏期に在ては地面就中泥澤中有機物の分解著明にして當時の病理學に於いて稱へたる「ミアスマ」（瘴氣毒）の發生最盛なるにありといはざるべからず

予の希望する所に據れば蚊對「マラリア」の關係を研究するとともに消化器及呼吸器よりの關係も亦之を忘るべからざるなり

尚ほ一言すべき事あり一見腸室扶斯の如く稽留性熱を有する「マラリア」の我日本に存在するの事實是なり予は之を「惡性マラリア」といふ

ベルツ氏其著書に曰く

四日熱（クアルタナ）每日熱（クオチヂアナ）

弛張熱（レミツテンス）稽留熱（コンチヌア）

不規則熱（イルレグレーレ）

以上は重症麻剌里亞にして每日熱を爲すもの最も惡性なりといふ

同氏又曰く以上の諸熱は日本に於て左の諸地の外予の識る所に據ればなしと

沖繩縣の二三の島

臺灣

高知縣（疑はし）

予は之に反し右諸熱の日本に少からざることを信ずるものにして新潟縣及北海道にあることは既に明治三十二年の拙著（小内科學）に記せり每日熱は青森縣にもあり

久利秀君臺灣の「マラリア」に就て軍醫學會雜誌百二

十一號中に曰く熱型は百七人中種類如左

日發	二三
隔日	七
稽留	四〇
弛張	一〇
不整	二七

臺灣には「稽流マラリア」上記の如く多し予の考に依れば本州(内地)にも余り稀有にあらざるのみならず普通の醫業に於ても吾人は之に屢々遭遇するものにして腸窒扶斯との識別を要する塲合多々あり而して是等は縣令の有無に因り腸窒扶斯疑似症として屆出を要するものなり其理由左の如し

明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法第二條に曰く

「傳染病流行し若は流行の虞あるときは地方長官は其の傳染病の疑似症に對し此法律の全部若は一部を適用することを得

即ち知事は傳染病にあらざる疑似の症をも屆出を命ずることを得るものにして例之は明治三十一年十月六日青森縣知事河野圭一郎氏は青森縣令第五十五號を以て左記に對し屆出を命ぜり

「熱性病にして腸窒扶斯に疑はしきもの」

此頃「蚊」の話余り盛なるを以て一は世人に衛生上の注意を促し一は「蚊」を以て只一の原因と見做すべからざる事を信ずるの餘り一言する事此の如し蚊も定めし滿足する所あるべし

因に記す

蚊の幼躰なる孑孑(ばうふら)を殺すには石油を溝に注ぐを良しとす又蚊は青色を最も好み黄色を最も嫌ふ者の如し紅色白色も稍好まざる色なるを以て服裝に白色を用ゆるを可(蚊)とす皮膚に觸るゝものには日本にて從來男子は白色を用ゐ女子は紅色を用ゆ蓋し本能(インスチンクト)と謂つべく甚だ可(蚊)なら阿々

(完)

●箴言

人慾をほしいまゝにして樂しむは、其樂しみいまだつきざる内に、はやくうれひ生ず



醫學士　久保猪之吉

●耳の痒い時●

前回に簪の危ないことをオ話いたしましたが諸姉もゾットするやうに思ひなさッたでしよう。それなら耳の痒い時ドーしたなら良いかと申すに、紙捻の先か何か柔らかいもので弄るならよろしいが、耳搔や火箸の先で弄るのは劍呑千萬です。しかし、人によッて耳搔のやうな、固いものでガリ〳〵音のする程か丶なければ承知のできぬ質があります。ソーいふ方は仕方がありませんから「アルコール」で痒い所をふくのです。ソーすればよく痒みがとまります。又千倍の昇汞「アルコール」で拭くのもよろしい。しかし、これは前以て藥舖から調合して貰はなければなりません。」

●顔剃の時の心得●

近來催眠術が流行いたすやうですが床屋に顔を剃らせて眠氣のさすのも一種の催眠術です。耳の孔の毛や、鼻の腔の毛を剃らせるのは何と無く氣持のよいものです。しかし鼻毛耳毛を剃ることは衞生の方より見ますと大いによろしく無い事です。世の中で鼻毛の伸びたのを何とか申して大いに嫌かる習慣がある爲め、鼻の腔の番兵とも申すべき鼻毛を毛拔――醫者のもッて居る鑷子のやうなもの――て殘酷に拔き去る人があります。唇滅びて齒寒しといふ詞がありますが鼻毛落ちて鼻寒しと申しましやうか。塵埃が肺に這入りやすくなり風邪を引きやすく、なります。理髮師に剃らせるのも同じ事です。鼻毛の伸びて見苦いならばその長い所だけつむが宜しい、剃りおとすには及ばない。」

次に耳毛の事ですが、この頃理由の分つた人々と鼻毛を剃らせる事だけはやめたやうですが耳毛を剃らせる事を何とも思はない。しかし耳を刄物で弄る事

は極危ない。御覧なさい。耳の孔はせまい管です、曲ッて居ます。皮が薄い。それを鋭敏の剃刀で中を見もせず暗中に手探り同然剃りおとす事ですもの、又耳の中は感じが强いから、不意に剃らせる人のとび上る事があつてよく創を附ける。創を附けると膿み出す。それがあぶないのです。ソーでなくとも耳の毛は、鼻の毛と同じに耳の玄關番です。例へば大きな塵埃とか、羽虫とかの這入ッて來るのを防ぎます。それで耳の毛も剃らせないのがよろしい。」

尙鼻の毛の事は前回の第百五十二號に私の「鼻の話」がありますから、あはせて御覧なさい。」

●耳按摩●

按摩師や、理髪師が、一番オ仕舞に耳の孔へ指頭をつき入れて急に拔き去る事をやる、あれが耳按摩です。吾々も耳のかゆい時などはよく自分でやるものです。これはヤッた後氣持がよくッて丁度耳が開通したやうになり耳の聞えがよくなる事がある。しかし急に指を拔く事が危險の基です。大坂で開業してをる堀内「ドクトル」が大坂で調べて見られたが鼓膜に外傷で破るのは按摩と理髪師の指頭が一番多いといふ話です。耳按摩そのものはよろしいがやり方がわるいと鼓膜を破る基になります。だから考の無い按摩手や、理髪師に耳を弄らせてはいけません。又自分でやる時も指を靜かにぬき去るやうにしなければ危險です。」

●髪の毛●

「かみ」といふ詞は「上」「神」「頭」「守」等、いづれも貴い上にある所をさしたものです。しかるに「かみを結ふ」とか「髪を剃る」とか申して頭の上の毛ばかりは、鼻の毛や、耳の毛と違ッて貴ばれて殆ど、頭の代表者となつて居ります。今でこそ、男の人は惜しげも無く黑々した髪を切て、すてますが――中には長髪議員のやうな人もありますが――昔は女と同しやうに髪を結ひました。ですから頭髪が飾裝の主なものとなッて此名譽をえたのでありましやう。昔から髪のふさ〱して長い、黑いのを珍重した事

は古い書物をみても明白です。徒然草に此いうてお
る「女は髪のめでたからむこそ、人の目立つべかん
めれ」即ち女は髪の毛の奇麗なのが一番人の目に附
くといふ事です。又支那の詩にも白髭な見苦い婆さ
んを鶴髪亂れて絲の如しなどと形容してあります。
又髪の毛のぬけたり、はげたりするのは如何に苦し
いでしやう。癩癬坊主にかゝッた女などはその爲め
に氣の狂ふ人があります。ですから毛髪の養生法と
いふは婦人がたに大切だらうとおもひます。」

●頭髪を穢くする婦人●

頭髪が女に欠くべからざる装飾品であると同時に之
を不潔にしておけばその不快な事言語の外です。諸
姉、流水浴にオ出になッた時所謂海人處女の髪をゴ
ランでしよう。頭髪は砂や塵にまぢれて櫛も通ら
ず。何時つけしとも分らぬ油は凝ッて、腐つて球を
爲しその臭い事何ともいひやうがありません。いく
ら可憐の兒女でも側に寄られるとその臭でソットし
ます。その汚れた頭髪の亂れてをる様子は鳥の巣の
やうでその色は赤茶をおびて少しも光澤がない。そ
れですから、早く白髪となり、又早く頭髪がぬけて
薄くなる。それにその鳥の巣のやうな頭髪の中は半
風子の住處となり、彼等は愉快そうに日前で半風子
をツぶしてをる。實に見苦い次第ではありません
か。それでありますから都の淑女ともいはるゝ方々
は頭髪の養生法を怠ッてはいけません。」

●頭髪の養生●

毛を一寸見れば死んだものゝやうです。又截ッても
痛くなし、爪ッても何ともありません。しかし、毎
日〳〵伸びて行く事は確かで、引ッぱれば痛い事も
確かです。又髪の毛の色の黒くなッたり白くなッた
りする事も疑ない。それ等を考へて見れば、毛も手
や足やと同じに滋養分を資ッて生長し、又神経によ
ッて支配されて居る事も分ります。ですから、衛生
の法を守りさへすれば髪の生長をよくし色澤を美し
うする事ができます。唐詩選といふ支那人の詩を集
めた本に『白髪三千丈、因憂如此長』てーたが、

ソーハツてある。昔から心配があれば一晩の中に頭髪皆白くなるといふ事がある。又「腸チブス」などの後や才産の跡て頭髪の抜ける事も諸婦ゴ存じてしよう。皆神經の作用で急に毛髪の營養が惡くなるからてす。それて頭髪の養生にはやはり身体全体を强壯にする事が必要なのてす。」

●頭髪の光澤●

水の上て遊て居る鳥をゴ覽なさい。長い嘴の先てオ尻の近傍にある脂を取ッてはその毛に塗り羽毛の光澤を失はせないやうに磨いて居ます。人間の頭髪も一本一本の毛の根の處に脂の囊があつて少しづゝ脂を分泌して居る。その爲めに毛は始終澤々しく光て居り又毛がサヽラのやうに裂けません。あの海邊の女どものやうに汚く捨てばなしにしておけば毛髪の先の方は皆サヽラのやうにさけて光澤も光も無くなり皆きれて短くなッて仕舞ふ。それてすから平生少しづゝの油をぬッて時々掃除をするのは頭髪を奇麗けするにも、大切にする爲にも必用なものてす。しかし油をぬり過ぎて捨ておく時は油が腐ッて却て頭の爲めにもわろし、交際の上にもよくない。油をぬるには適當にぬり、時々洗ひおとして古いものをのけるのが肝腎てす。」

●頭髪の淸潔●

日本のやうに一度結ッた髪を一週間も二週間もピンとしたなりにすてゝおく事は唯に衣服の襟を穢すばかりてない。頭髪を惡くし又頭痛を引き起す。大きい髷や入毛や髢を用ゐる爲めに頭の中央てはその壓へ付けられる力で血の通ひが惡くなる毛がぬけて禿になる。又重いものが載ッて居ると神經質の人は頭痛がして堪らない。又油が腐り、フケが溜り、ツマり頭の上には、かの奥山に落葉が積ッたやうに垢が集ッて、又頭髪の根の營養がわろくなり毛が伸びぬ、抜ける、白くなる、薄くなる、といふ工合になッてくる。それを拒ぐには時々頭髪の中に櫛の齒を入れて風通をよくし、皮膚に適當の刺戟を與へるやうに搔く、又石鹼て奇麗に毛と頭とを洗ッて垢を去り、

決して捨てばなしにせぬやうにするがよろしい。」

●毛の抜けるのは●

婦人達の最もおそるゝ所でありましやう。ですから、夫に別れて二人の夫を持たぬなどいふ時には翠の黒髪を切りおとすか剃りおとして尼になり身をすてるといふ事もある。毛のぬけるか、はげるのは婦人の最もツライ所であるから、之を防ぐ事を心がけるのも必用のことです。前にそれ〳〵申した注意の外に、小さな虫の爲めに毛の折れたり、切れたり、抜けたりする病氣がある。ソーいふ病氣はよく他の人より感傳る事が多い。臺灣坊主といふ中にも黴菌の爲めに起るものがあります。男ならば理髪店で髪を櫛つッたりする爲めに甲より乙へと移ることがある。女の方にても女結髪師が同じ櫛や道具で方々の家を行きめぐる爲にその櫛や道具が媒介と成つて移すこともあります。ですから自分の頭髪を解かす櫛や、洗ふ布などは丁度手拭を銘々持ッて居るやうに區別て置かねばなりません。決して他人と共通のもので頭を櫛けつッたりすることをさせてはいけません。殊に危險なのは頭の上に感染する恐のある腫物が――假令ば梅毒性のもの等――出來て居る時は櫛の齒で創が付いたりしてそを移植ゑる事が無いとも限りません。」

●箴言

冬温なる事を極めず、夏涼しき事なきはめず、凡、一時快き事は必後の災となる　（千金方）

看護法

普通看護法（二十四）

醫學士　米山彦郎

●消毒劑皮防腐劑製法（續き）

（阿列布油）皮膚の痂皮、又は結痂などは此油の奄法によりて皮膚を傷ける事なしに取除く事が出來ます即ち「リント」布、綿抔に此油を浸し痂皮の上におき其上にはアマニン油紙又は蠟引紙を置き繃帶を施こしおき毎日一回位取換へる時には痂皮は追々

に柔はらかとなり取除く事ができる、其他軟膏や硬膏の爲めに汚れた皮膚を淸淨にする時通常此油を以て拭ひ去る時は見事にとれます、

又此油は肛門などを觸診する際に其指に塗り挿入します、之は一つには指を挿入するに滑らかなる爲め、二つには萬一指に微傷ありとも油にて被ければ從ひて惡しき黴菌などの直接に傷面に觸れて躰中に竄入し恐るべき疾病などを起さぬ豫防ともなります、

又診察の際器械を滑澤にする爲めに用ゐらるゝ例へば肛門鏡、尿道カテーテル、尿道消息子等に塗ります、而して尿道に關する器械に用ゐまするには必ず豫じめ殺菌したる油でなければなりませぬそれは不潔の油などぬる場合には尿中に黴菌は繁殖し容易に膀胱加答兒を惹起す恐れあるからです、

此油は塵埃の混ぜぬ樣共口の瓶中に貯はへらるべし油を用ゐる場合に直接に筆なり指なり器械なりを油の容器中に挿入する事は大禁物で決して行つてはなりませぬ若しも如此なす時は油は濁溷を生じ再び用に堪へず加之折角の殺菌も一回のみで無効となる理です、此等の事は瑣細の事の樣ですが苟も消毒を完全にしようと云ふ場合には頗る重大の事で呉々注意していたゞかなければなりませぬ、左すれば如何に致せばよろしきかと云ふに凡て如此場合には用ゐる度每に瓶より筆なり指なりに注ぎかけ瓶には直ちに栓をしていたゞきたい、尤も理想的に申せは瓶には栓をなしたりとて其口には數多の黴菌附着しおる事なれは常に瓶の口をば脫脂綿などにて包みおかるゝ位に注意して願へば殊更結構と思ひます、

(莫爾比涅及古加乙涅溶液) 此二の溶液は誰人も知らるゝ如く多く鎮痛の目的にて皮下の組織中又は皮膚の中に注射料として用ゐられます、注射するには普通20%の溶液をプラワッ氏の注射器に半筒又は壹筒を用ゐます、其他10%乃至20%の濃厚のものは口腔咽喉等の粘膜に無痛的の手術を施こす場合などに塗布する事もあります、兎に角何れに致せ溶液は透明で併も注射用としては十分殺菌したるもの

でなければなりませぬ、
此等溶液を貯へおくには擦り硝子栓の廣口瓶に容れ一見して明らかなる様に藥名を記載しおく事が必要であります、何故なれば此等を用ゐるは多くは危急の場合であり且つは共に劇藥であるからです、
此等鎭痛劑は只一時の苦痛凌ぎに用ゐらるゝ場合が多く、患者の側から申すめ此上もなき神藥であるが醫者としては避け得ざる場合の外は時々引續きて用ゐる事は甚だ忌み又た懼るべき事です何故となれば此藥特に莫爾比涅劑を時々服用するは其効用の姑息的なるのみならず往々中毒症を起し治し難き場合に至る事があるからです、それにつきて玆に一寸其中毒症狀の事をつけ加へておきませう、
若しも急性の中毒の時には患者は惡心を催し嘔吐を來し精神は朦朧となり嗜眠となり全身發汗脈搏は非常に遲くなり瞳孔は非常に縮小し終には人事不省となり呼吸停止して死に至る事があります、此急性中毒は分量を誤まりし等の場合に起るものなれど吾々の最も恐れるは反て慢性の中毒です、特に神經質の人は之に罹かりやすいといふのは神經質の人は一般に莫比の注射によりて精神快活となり仕事も捗取る様になります從ひて勢ひ注射を繰返す事となり知らず知らずの間に度數重なり終に慢性の中毒に陷るととなります、愈々中毒症にかゝる時は莫比の注射なしには一日たりとも絶へ兼ねる様になり性質も全く豹變し莫比を得る爲めには財産を擲ち一身をも犧牲に供し道德心なども失はれ人の財寶をも莫比を購ふ爲めには平氣にて横取りする如き有樣となりますこうなると觀念の力は失はれ記憶力は衰へる其上身體に色々の故障現はれ營養不良、心動の不整視力の障害さては皮膚の乾燥など起り到底事務を執る事は出來ませぬ、此患者は中毒と知りつゝも注射をやめる事が出來ず從ひて醫師に治療を受くるとを忌みよしや入院治療する場合となりても注射を欲めらるゝとを恐れ出來得る限りは醫師看護婦の目を忍びても注射を試みます、現に私の見た一婦人の如きは日々

消毒などに頓着なく無暗に腕などに注射したので其傷口が化膿したものと見ゑ腕一面瘢痕にて掩はれて居りました此婦人は大學病院へ入院し三浦博士の治療を受けましたが入院後も猶ほ注射する形跡があるといふ博士の鑑定で嚴重に看護婦に注意せしめた處が案の如く帶の間に鏥び且つ破損した注射器を隱して居る事を發見したので其由來を詰問せしに或時濟生學舍の生徒から貰ひ受けたとの答でありました：前述の如き恐るべきものなれば醫師の命令の外は步々濫用するとはなりませぬ、

（硝酸銀溶液）此溶液も種々の目的に用ゐらるゝものて特に眼科の御醫者樣には欠くべからざる御手の內の寶です、一般に欣衝したる皮膚又は粘膜面に塗抹し又は注射するに用ゐらるゝ、其溶液の濃さは目的により色々てあるが一二の例を擧げますれば尿道炎（淋病等）の際には10‰即ち千倍、眼の結膜の加答見には0.3%即ち三千倍、又は0.2%即ち五千倍、外皮の潰瘍面抔には50%即ち五百倍の强きものを用ゐます

序に一言致しておきますが眼に點眼したる場合には直ちに0.6%の食鹽水にて洗はねばなりませぬ之れは其儘に放置しおく時は藥の刺戟が長くつゞき患者には堪へ難きからてす

之を貯ふるには褐色又は黑色の瓶に入れ可成暗き所におきます、左なくは日光の爲めに分解し用に適せぬものとなります、

此溶液か皮膚なり白き衣服なりにつく時には黑き斑を殘し容易にとれませぬ、かゝる場合に十倍位の沃度加里溶液にて洗はるゝ時は見事にとれます、

（硝酸銀棒）之は潰瘍面などより新生したる性質のよろしくない肉芽などを腐蝕するに用ゐます、

此棒を用ゐるに當り尖らすには濕りたる綿にて摩擦する時は任意に尖ります、又掃除するには乾きたる綿にて拭ひおけはよろしいです、此等の際注意して手などに觸れぬ樣にせねばなりませぬ、之れも前と同樣に暗き所に貯へらるべし、

（コロヂューム）單舍利別の如き外觀を有する粘稠

の液にて――火綿2依的兒42酒精の混合物――空氣にさらす時は固き痂皮をつくるもので此性質を利用して微小なる刺傷等繃帶する程でもなきものを被ふ場合に用ゐます之は水や湯へ入れても容易にはとれぬ故便利の事があります、例之細微なる傷よりも傳染しやすき細菌等を取扱ふ場合には肉眼には見えなくとも微小なる傷にてもありそうな爪の間さかむけ等い所に一面に此コロヂュームを塗りまする時は指は恰も薄き護謨の袋を被ぶりしと同樣になり傳染の危險を避ける事ができます、

又20%位の撒里矢爾散コロヂームは鷄眼（ウオノメ）を取除くに用ゐられます、

此コロヂュームは容易に着火し易きものであるから火に近づけるとは危險です、又貯へるに密閉しおかぬと依的兒等揮發し固くなりて用ゐられませぬ、皮膚につきしコロヂュームの痂皮をとるには醋酸依的兒にて濕ほす時は追々柔らかとなり取除くことが出來ます、



應急處置

醫學士　米山彥郎

凡そ傷けるを救ひ病めるを治するは醫師の職務なれど、不時の出來事に際し醫師の來るを待つ暇だになき場合には、何人たるに論なく相當の救護の法を講じ大にして一命を助け小にしては其治療機會を誤まらしめざるは蓋し人生相互に處するの義務であらうと思ひます、左はいへ多くの人はかゝる不虞の機においては徒に周章狼狽施こすべき術をしらず或は反て不利益の處置をなし取返へしのつかぬ不幸に至らしむる事も見聞いたすは御互に心細きことに覺えます、一躰災難に罹かりし當人の驚きは無理もなきことながら周圍の人々が狼狽ては急に招かれし醫

者迄も落付かぬ事となり狼狽者の三幅對ては到底適切の處置などは覺束ない事となります、されば醫者となく看護婦となく誰人にても平素無事の日によく不時の出來事につき豫じめ注意せられ火急の場合に當り沈着として其處置を誤まられぬ樣御心掛の程が必要であります、それにつき日頃皆樣の御參考にもと心に浮ぶ節々を何くれとなく記載せむかために此欄を設けしなれば折々は重復にわたり又は喋々しき事共多かるべしと思ひ一寸前以て御斷り致しておきます、

●人の失神せる場合の處置●

此正氣を失ふと申す事は何れの場合にせよ兎に角重き症狀にて彼の養生訓にも頓死症として數へられる卒中の發作――人身諸官能の中樞たる腦髓中に俄かに出血する爲め精神を失ひ手足なども動かぬ事となる――とか頭部に傷を受けたる時とか又は癲癇發作とか泥醉せる者とかに起るもので周圍の人の驚くのが常です、そこでかゝる場合になす處置は如何にといふに先づ靜かに衣を脫せしめて首胸部を裸出し冷水を灌ぎかけ、可成新鮮の空氣の通ずる樣に注意し頭部には冷罨法を施こし、若しも顏色蒼白なれば頭部を低くし、充血して赤くなりなるときには高くするが必要です、

かゝる患者はよく舌をかみ出血し又は赤き泡を吐き出すとがありますから注意して靜かに舌をば齒列の後に挿入せねばなりませぬ併場合によりては齒をくいしばり容易に開き得ぬ事があります此時には開口器と申す器械で開きますが斯る器械もなき時には尖りし木片即ち有り勝ちの薪を削り又は使ひかけの松魚節などを齒の間に挿入しおけるなど一寸思ひつきかと存じます、

其他注意すべき事は大小便の事ですがもしも半日以上も利尿のなき時には人工的に尿道カテーテルと云ふ器械にて排尿せねばなりませぬ

此の如き人事不省の狀態が一日以上持續せし場合には淸淨なる白布にて患者の口中をよく掃除し、痰を

肺中に飲み込み肺炎を起す事及懼るべき耳下腺炎—耳の下の腺腫其部分の皮は赤くなり高熱を發す—などを起さぬ樣豫防せねばなりませぬ、又食道消息子とて護謨製の管を食道に送り之れより食物を胃に送らねばならぬ事があります、万一呼吸止まりし時は平手にて胸を打ち又は冷水を灑ぎかけなどして外皮に刺戟を與へ猶効なき時には人工呼吸を行はねばなりませぬ此方法は何れ他日折を得て伺ふ事に致しましよう

●口より多量の血を吐きたる時の注意●●●●●●●●

黒き色の血を多量に咳嗽等なく吐き出だしたる時は多くは胃の出血などは患者をば靜かに床に就かしめ頭を低くし、心臟の部分及胃即ち水落ちより左の部分に氷嚢を貼し、氷に一匙位の食鹽及び少量の水を混じて飲ましめ、其外に何物にても與へるとは禁物です、又發音するとを禁じ、又咳嗽する事も避け、醫者の來るを待たるべし



質疑欄

●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは答解の限りにあらず候答解に遲速あるは登載順に都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にても差支なし●本號の雜誌に登載する分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす

問　　質問者　九州　一婦人

拜し上候妾事夫は病氣（肺病）のため毎日〳〵三十七度より八度迄昇り熱の爲め身體弱り診斷を受けましたら「アンピリン」を、五用ひよと申されました然るに解熱劑は身體を弱らすこと甚しと聞きました或先生の說には熱にて身體をよはらすよりは解熱劑にて熱を下げた方弱り少しと承りました甲乙ドチラが正當の說にて患者弱らぬ苦まぬ方はおはしまさずや御尋申上ます

答解者　本會審事員

答　凡て有熱の場合に解熱剤は用ゐべきものなるや否やと申す問題は醫學社會にても未定の大問題なれば序に熱と申すものゝ性質につき一寸簡單に御話し申しておきましよう、

元來熱と申すは一つの病氣の症候にて身躰の新陳代謝の作用が高まり躰温の昇騰する現象であります、夫故熱のある時には躰温は平温より高く、呼吸及心臓の搏動も増加してきます、

人の躰温と申すものは常時安静の時は腋下にて三十七度乃至三分、直腸に寒暖計を挿入し計る時は三十七度五分より六分の間にあるものです、

そこで何故に發熱する様になるかと申すと、腸窒扶斯とか實扶的里亞などの熱病が細微なる黴菌により起るのでも大凡想像のつく通り、黴菌が人躰中に入りて生活する時には躰中の蛋白質の分解換言すれば燃焼が盛んとなり從ひて熱の發生が多くなります、健康體にては運動等の結果熱の發生多くなりし場合には熱を躰より放散して失ふ事も之に準じて多くなり熱の調節がよく行はれますから躰温の高まる事もありませぬが熱病者は此放熱殊に躰の表面より水分の蒸散するとが鮮少で産熱の増加の度に一致しませぬから愈々躰温が高まるのです、かく躰温が高まれば蛋白質の分解する事が旺であり且つは發熱中は攝養不充分でありながら呼吸器及心臓の作用は益々亢進しますが故、身躰の健康の時分に貯へられた脂肪は段々と消費せられ其結果躰重は追々に減じ、筋肉は痩せ全身疲倦無氣力を來すに至ります、

或一派の學者の説では熱の發するは、黴菌が人躰中に入る時は有害なる産出物を出だし、人躰の組織はこゝに此有害物の侵襲に對して防禦する反應として熱を發するのであると申しますが、今日の處また確定は致しませぬ、兎に角病原物が躰中に侵入したる時起るものなれば強ち人躰に不利とは思はれませぬ、併し前述の如く躰中の細小有機躰や又は其有害なる産出物を消滅するに是非かくべからざる現象と見做し發熱の溶解熱剤を用ゐるは絶對的に不合理と

申す程躰にとりて必要のものでもありませぬ、然らば發熱したる場合には如何處置せばよきかと申すに、前述の理由により無暗に解熱劑を用ゐるとけ出來ませぬ、又熱のみ藥にて一時下したりとて決して病氣の經過を短くし又は治せしむるといふ理にはまいりませぬ、夫故今日の處我々は只高熱が幾日かつゞき神經系統、心臟、胃腸等に有害の影響を及ぼす時のみ解熱劑を投ずる方針であります、

そこて、御質問の肺病にては熱は續きてなくとも時々發するのが通例で輕き場合には朝は平温にて夕刻二三分高くなる位の事が多くあります、夫故餘程注意深き人てなければ氣付かず只身躰がぽうと赤くなる位の事です、醫師の診察の際肺病などに疑わる場合に（身躰の熱くなる事はありませぬか）と尋ねるのは此故です、而して肺病の熱は高低著しきのが通例て之を弛張熱と申します、若しも肺病患者にて三十九度以上四十度位の熱の續く樣になれば結核菌の外に他の化膿菌の肺に侵入し又は病氣の一面に廣がりし徴候にて重症と思はねばなりませぬ、併し肺患にかゝりし人なれば必らず有熱のものかと申せば、そうとは限らない、殊に老人にては時々無熱の事があります又有熱の患者でも時々はなくなる事があります、

偖て肺病の時の熱の處置は如何といふ御質問ですか、重復して申上げし通り解熱劑は一時熱を下すのみて、根本的に熱の發生の滅せざる間は再び發熱するを免れん、加之發熱は黴菌に應ずる身躰の防禦など申す說さへある程なれば肺病の如く每々續く熱に向かい每日々々解熱劑を用ゐる事は蓋し問題てす、又肺患には解熱劑は餘り有功でなく、加之熱の自から下る頃に熱ざましを與ふる時は非常に低く下り虛脫と申して、顏は青くなり、鼻は尖り、冷汗が流れ、脈は細くなり、氣も遠くなり、手足も冷めたくなる事があります、特に（アンチピリン又はアンチフェブリン）等を大量に用ゐし場合に斯樣な事が起りますから看護なさる方は注意せねばなりませぬ、

先づ一週に一回位早朝無熱の時に楊曹二グラム程一度に内服する杯の方が危險がありませぬ、一般に肺病の弛張性の熱には解熱劑を避けますが、之れも其人々の身躰、病氣の度等色々の狀態による事なればば委しくは主治醫の命令に從はるゝ事が肝要です、

質問者　神田　一會員

問　丁年以上の女子にして陰毛なきもの之あり候へども如何なる理由に候や又身躰の上には別段差支なき者に候や世間例あるものに候や發生せしむる方法も有之候へば何卒御教示の程ひとへに願上候

答解者　本會衛事員

答　これなければとて、まのあたりあしきの不便を覺ゆることなしとも、ありとし定まりしものゝかくるは何となくものたらぬ心地せらるゝこと至極御同感に存候、抑も此部分は一二の破格こそあれ女子長じて十四五才になれば、さながら雪消の春の野のごとくこゝかしこよりもえ出で追々に生長するが通例に候得共數年後れて初めて發育する例も有之候、元々此毛と申すものは生長して後新たに發生するものには御座なく、生れ落ちし時よりもち來りしもの追々生長するのみに候へば毛が生へると申すよりも寧ろ毛が生長する太くなると申す方然るべきかと存候、既に胎兒として母躰中にありし時其十二三週目頃より毛の基礎となるべきもの皮下組織となるべき部分に生じ、二十三週より廿五週頃となれば毛にて全躰を被ふ樣に相成り申候、尤も之れは綿毛の如き柔らかきものにて柔毛と名づけ申候、かくて生產の後眉毛頭部等の毛は發育他よりよき爲め著しく長くなれども他の部は別して發育せぬ爲め毛のある所となき所との區別生ずる事にて候、鬚髯、腋窩の毛、陰毛などは中長となりて初めて生長するものに有之候、されば有る無しと申すも生長するとせざる迄の差異に候へば生長すべく約束のあるものは遲速こそあれ何時かは時を得顏に萠え出る事あるべしと存候、左はいへ多寡長短は天工の配合なれば如何ともなし難く候へば此等の點は御觀念の上决して御力落

しなき様御力添申上候、人工的に毛の發育を早やめむとなれば其部分の皮膚に刺戟を與へ血行を盛ならしめ毛根部の管養をよくするが肝要に御座候、これには少こしく赤くなる迄皮膚を摩擦するのみにてもよろしく候か五千倍位の昇汞アルコホールを綿にしめし之にて毛の發育すべき部分丈けを一日一回位摩擦せらるゝなど御試めしあれば猶更よろしきかと存候、併し一寸御注意申上置き候が此藥は劇藥にてもあり且つ粘膜にぬる時は刺戟つよく候間夫等の點は豫じめ用心御肝要と存候

質問者　天鹽某女

問　感傳電氣の消極積極は如何にして見分け申すにや

答解者　本會幹事員

答　感傳電氣に於て消極積極の區別をとの御質問に候が、平流電氣なれば其兩極は一定いたし居り、電機(完全)にある電流交換機と申すものを動かさゝる以上は不變のものに有之候、左れど感傳電氣に於ては其兩極が瞬間毎に互に變換し決して一定しおらざるものに有之今の瞬間に一方消極なれば次の瞬時には積極となり候　左れば兩極を定むる必要は感動電氣には無御座候、

質問者　高知　林たか子

問　私の近親のものにして本年廿五才の婦人此頃初産致し候處分娩は至極容易にて、男兒を舉げ一同大喜び致し候ひしが、後に肛門の缺如せるを心付き親族一同の驚き一方ならず、如何なる因果にやと鳩首心配罷在候　尤も産婦には密かに致し居り候が如此事は醫學上有之ものに候や又如何に處置すべきものにや一寸御指示願上候

答解者　本會幹事員

答　肛門閉塞と云ふ畸形は割合屢見受くるものに有之醫學上差して珍奇のものにも御座無く候　元來此畸形の生ずる理由は、消食管は初めより肛門に通じをるものには御座なく、胎兒發育の一定時期に當り肛門となるべき部分の皮膚に凹みを生じ之れが

段々深入すると同時に一方には腸管の下端下り來りて遂に相連續し茲に初めて肛門が形成するものに御座候此發育作用が完全に行はれざる場合に肛門閉塞を起す儀にて候從ひて其閉塞の度合は種々有之例へば殆ど肛門の形跡なきもの又は幾分凹んありて肛門の形のみ。示すもの、隨分深くして外見上敢て異狀を認めざるも膜狀の中隔によりて閉ぢられたるものなど有之候

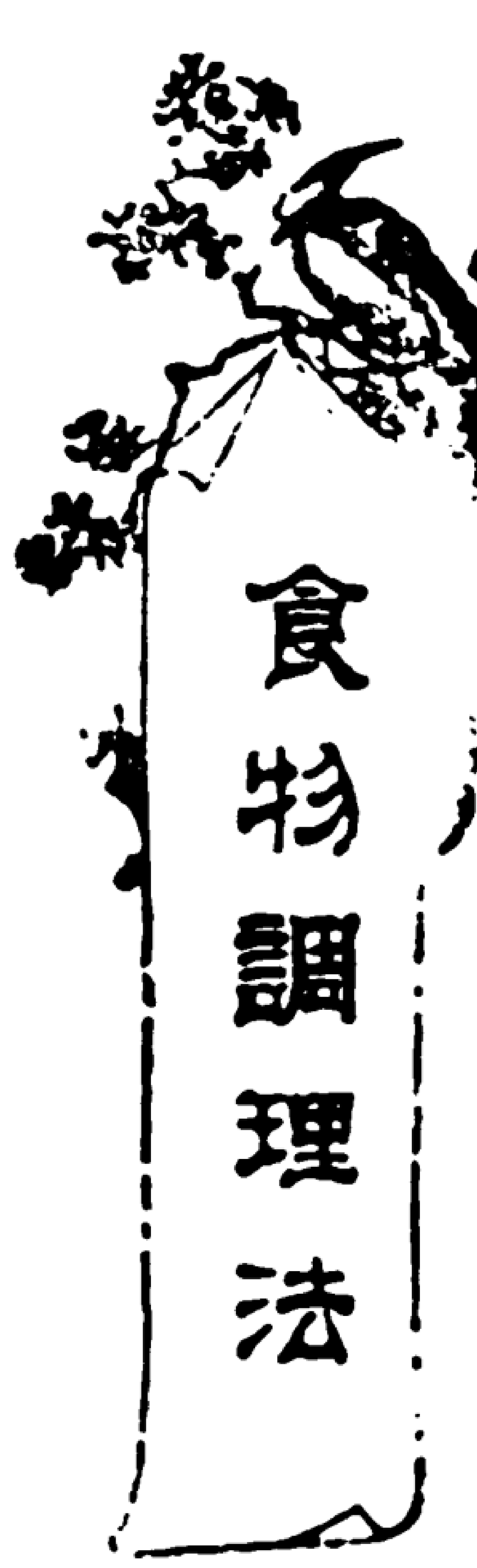
此畸形を擔ふものは、消食管は貫通し居らざる故內容物をば自然の道を通じて排出すること能はず反對に逆上して口より汚物を吐出するにて御座候從ひて腹部はいたく膨脹し、食餌を攝取すること能はず猶放置するときは追に營養不良に陷り他界に赴くを常と致し候、右の如き次第に候へば一旦此畸形を發見したる以上は躊躇なく外科的手術を施こすより仕方御座なく候即ち肛門部を深く切開し腸の下端に達し茲に於て腸の粘膜と外皮とを縫合し腸管を貫通せしむるにて候併し閉塞せる部分長く到底外部より腸に達する能はざる場々往々有之斯る場合には自然の場所に肛門を形成する事能はさる場合には左下腹部を切開し腸管に横合より孔を穿ち人工的肛門をつくること有之候併し此等手術は初生兒にとりては割合手重き手術にも有之候へば概して豫後は不良に有之多くは管養を害し生命を失ふものに御座候序ながら一言致しおき候が、兎角世間には迷信的のこと多く往々治療の期を誤り終に救ふべからざる狀態に陷らしむること有之候先頃或婦人は愛子に手術を施こす事を拒み吸出し膏を以て肛門を吸出さんてう素人的明案療法を施こしをく無慘や愛子の死を早め、又他の婦人折角醫師の勸告に從ひ手術を受けしも其後肛門の再び癒着を防ぐ爲めに通ずる（ブジー）の爲めに愛子の悲泣するを恐れ、虫か出るとき容易ならすとを中途にて治療を受けず折角の手術も無効に歸せし例も耳に致し居り候事頗る兒戯に類しおり候へ共危急の場合に臨みては賢婦も愛に迷ふこと有之候へは斯る場合には斷然信任すべき醫師

に一任せらるゝ方反て眞に我子を愛する所以と被存候まゝ一言御注意迄に申上置き候

●御斷り　會員諸姉より續々御質問有之候に付可成速に御答解可申の處本月は答解者旅行等の故を以て悉く諸姉の意を滿たさゞるに遺憾に候へども次回よりれ可成多く答解の筈に御座候豫而御質問相成居候愛知の一會員、秋田の一會員、福光氏、新潟齋藤氏、一會員、八王子一會員、下野一會員、南部家の士、福岡近藤氏其他、本月御質問に相成候方々に右御斷り申上候

●答解の雜誌上に登載する分は時の質問の多少には依り候へども凡そ前月十五日迄に御遣しの分と御了承下され度候





●實用日本料理法

女子美術學校舍監兼附屬料理法講習所主任　横井玉子

飯　紫蘇めし　鹽少し

中皿　鹽茄子　湯とり
　　　蓼の酢味噌　湯てゝ

小丼　とうなす　湯てゝ
　　　黒胡麻和へ　す　さとふ　せうゆ

皿　玉子の厚焼　玉子一杯　たし半杯　せうゆ　さとふかて
　　卸大根せうゆかけ

汁　冬瓜　あられしら玉　たしけ　せうゆ　薄くす　みりん

●紫蘇めし

紫蘇に赤じそと青しその二種あり飯に焚くには青しそを用うその青しそを水にてよく洗ひ之れをばり

くになるまで日に干し而して後ち採んで粉にし飯を焚きて火を引く時に之を釜の中へ振り込み飯ばちに移す時よく交るなり飯は鹽を入れて焚くべし

●鱸のなます

鱸を三枚におろし皮付のまゝ刺みに作りまな板にならべ布巾をかけその上より沸湯をかけ而して後ち冷水をかけて布巾を去り、

茄子の皮をむき竪に二ツ割にして湯でゝ又竪に二分位の厚さに切り少ししぼりて、皿に盛わけ酢味噌も片わきへ付くべし

蓼味噌の作り方はたての葉を水にてよく洗ひ細かに刻み擂鉢にてよく擦り味噌を入れて又よく擂り酢とさとう入れてすりて後裏ごしにてこすなり、

●厚燒玉子

玉子匙に一杯、煮たし半杯、醤油玉子の五分の一、砂糖少々、一人前に付玉子二三の割にしてよくかき回し燒なべに油をひき充分に燒たる時玉子を入れ蓋をして火を戴せて上下よりやくべし皿に盛り大根おろしに醤油をかけ之を添へて出す、

●冬瓜汁

冬瓜を横四分竪五分位ひにきり上の方に庖丁をいれ湯てゝ、しら玉の粉を水にてこね小さくまるめ之も湯てゝ鰹だし汁に入れ醤油とみりんにて加減をしくづを水にてとかし汁の中へ流し込みざつと煮たて碗に盛るべし

○とうなす胡麻和へ

青とうなすの皮をむき五分四解に切り湯でゝ丼に盛り胡麻酢かけて出す胡麻酢は黒胡麻を煎り擂鉢にてすりさとふに酢とせうゆを入れてあま酢にして

編者申す次號雜誌には西洋料理法を登載致しましやう

●箴　言

怒の後、早く食すべからず。食後怒るべからず。

憂いて食すべからず。食して憂ふべからず

●女子美術學校の增築と料理法講習所

本郷なる女子美術學校は創立日未だ淺けれども次第に盛況を呈し屢々生徒製作に係る美術品を從覧せしめしが女子工藝の進歩は眞に驚くべきものあり果せる哉仝校は高濶なるに拘はらず今や校舍狹隘を告け尙第三拂舍及寄宿舍を建築して舊寄宿舍とも同校內に移し此際各科共新入舍を許可すべしといふ詳細の規則は本郷弓町三丁目なる女子美術學校宛二錢切手封入にて問合はさるべし

◎同校附屬料理法講習所

本所は是迄女子美術學校舊寄宿舍に於て教授せしが追々加入者の增加せるにより此頃寄宿舍の移轉と共に校內の新舍に移り引續き日常適切の料理法を教授し尙進んでは看護法に關する衞生料理法をも教授すべしと云ふ同所は暑中休暇後は高等科に支那人を聘し支那料理をも講習すべく始業は本月十五日にて尤も便利なるはいつより入會するも其時より向ふ三ヶ月にて卒業の都合なりと云ふ詳細は本誌廣告欄に就て見らるべし食物は人生欠くべからざる要素なり社會の進歩は豈香の物茶付けにて可ならんや此種の研究盛ならんことを望む

中外彙報

●學位授與　本月十日榊順次郎氏には第一、姙婦嘔吐症第二、生理的姙娠嘔吐と胎兒及胎盤の發育との關係第三、日本婦人の骨盤及他の固有なる狀態と分娩時間との關係第四、姙婦の生理的脈態に就き、論文を提出せられ醫學博士の學位を授與せられたり又村上安藏氏には白血病者の網膜に於ける病狀に就き論文を提出せられ同しく醫學博士の學位を授けられ尙同時に農學博士の學位を授けられたる大森順造の三氏なりき

榊博士論文の要旨拔萃

◎第一姙婦嘔吐症に就て

本篇は之を分つて三章となす其第一章に於ては先づ第一に姙娠嘔吐に關する「リテラツウル」を擧げ次で

姙娠嘔吐症に就て既往の「リテラツウル」に發見せさる新實例として四例を載せたり其第一例は三十七歳の婦人にして八子を擧げ男子を姙娠するときは惡阻なく女子を姙娠するときのみ惡阻を起したるもの第二例は三十三年の婦人にして同じく八子を擧げ男子を姙娠せしときは魚肉と煙草を好み女子を懷姙せしときは之を嫌ひたる例なり第三例も又多少女子を懷姙したるときに嘔氣を發せし例なり第四例は二十四歳の婦人にして第三度の子宮後屈病を有し第九週の姙娠にあり嘔吐を發したる者にして子宮を前轉前屈の位置に直すときは嘔吐增劇し其中間の位置に置くときは鎭靜し之を反覆實驗したる例なり後本患者の子宮を隔日又は三日に一回上方に押壓せしに嘔吐全く閉止するに至れり(中略)

第二章に於ては姙娠嘔吐症の治療法を論んじ第二に左の關係に就き研究せられたり

●第二生理的姙娠嘔吐と胎兒及胎盤の發育との關係

著者は姙娠嘔吐と初生兒との關係を表すもの三百例及姙娠嘔吐と胎盤との關係を表すもの一百例とに就て姙娠中嘔吐を發するものゝ數及其輕重は胎兒の性に由りて差異ありや否や嘔吐の有無輕重及其時期の早晩長短は胎兒の發育と胎盤の發育とに影響する所ありや否や且嘔吐の有無は臍帶の長短と相關する所ありや否やの諸點に就て調査せり

先づ其調査材料に就きて體重、身長、頭圍の平均數を男女を通じたるもの及び其各々に就て算定し之を基礎となし姙娠中嘔氣嘔吐の有無及其輕重に關して七種の階級を設けて調査を行ひ次の如く結論せり

(一)生理的姙娠嘔吐は男兒を孕める時よりも女兒を孕める時に發し易きものなり

(二)生理的姙娠嘔吐を發したるものは之を發せざりしものに比すれば胎兒の發育多くは佳良にして所生の小兒は男女を問はず其體重、身長、比較的大なり

(三)生理的姙娠嘔吐症が其強度を加ふると共に胎兒

の發育は益々佳良となるものなり從て所生の小兒は男女を問はず其體重、身長、益々大なりとす

(四)生理的妊娠嘔吐症の大多數は胎盤構成期に發するものなり

(五)胎盤構成期(妊娠第二、第三、四ヶ月)に嘔吐症を發したるものに於ては胎兒の發育最も佳良なり

(六)胎盤は男女に由り其大小粗密を異にす即ち男兒の胎盤は比較的大にして比重輕く女兒のものは之に反す

(胎兒の營養と胎盤の比重との關係に就ては他日「胎兒の重量と胎盤の關係」と題し世に公にせんとす

(七)生理的妊娠嘔吐症を發したる妊婦の産出せる胎盤は之を發せざりし妊婦の産出したる胎盤に比し其重量、容積及面積は小なれとも其比重は却て彼よりも重し而して此關係は男兒女兒を區別するも同一にして殊に嘔吐症ありたる妊婦の産出せる胎盤は其比重著るしく大なり

(八)生理的妊娠嘔吐症の强度を加ふるに從て胎盤の比重は益々增加するものなり(胎盤の比重增加するに從て生理的妊娠嘔吐症は益々增劇す)

而して妊娠嘔吐症の有無及輕重は胎盤比重の大小即ち其實質の粗密に因るものなるへきことは著者の研究に由りて得たる新事實にして之と相似たる研究は唯ヱニロス氏の報文を見るのみなれども氏の所說は單に胎兒及胎盤の重量大なれば嘔吐の度强しと云ふにありと云へり

著者の調査研究せる此事實は未だ他人の論及せざるところのものにして妊娠吐逆症の原因論に一の根據を與へたるものにして學術上有益なる研究なりとす次に第三には日本婦人の骨盤及他の固有なる狀態と分娩時間との關係及第四に妊婦の生理的脈態に就て論及せられしがソワ素人の了解に難き點多ければ下略となしぬ

●竹中學士の肺病談　青森第三中學校第一回修業證

出授與式の際醫學士竹中成憲氏には肺病に關する一場の談話をせられたり同氏より寄送により今其大意を記さんに

私は校醫にて皆様の身体を検査をするものであります、學校の体育法としては一二三の號令で体操することは至極宜ふ御坐ります、たが家庭の体育としては實業的でなげりやなりません、實業的とは雪掃除をするなり、雜巾掛けをするなり、薪を割るなり、米を搗くなり家政に對しての實業主義でわります、奥座敷で蒲團の上に火鉢を擁する奥様は肺病となることわるも臺所にありて雜巾掛して働き居る下女は身体も肥大し至極健康でありませぬか、私共の祖父や曾祖父の時代には今の如く莫大小のしやッつなとを着たことは誰れもわりません、又牛肉を食ひ牛乳を飲だ人もありません。此の風習は内地に限らず北海道に移住した人々も皆な斯んなものでわりました、でも肺病はないと云ふものは、健康だからです、夫れに今は鰊漁に從事する雇人までが牛肉を食ひ莫大小のしやッつを着ることゝなり却て不健康者が多くなりました、全國の壯丁より强壯者を選拔する兵隊にすら年々肺病人の増加しつゝあります、先年の調査には兵士壹萬人に肺病患者二十人の割合なりしに最近の調査には四十人の割合となりました、學業は如何に俊秀で品行は如何に方正で優等生となり特待生となるとも身体不健康、就中肺病でありましたならば一身の爲めにも國家の爲めにも何の効能もありません、校長様は此處に居りますが、居らん積りで、校長様をば拔きにして親たるものゝ心情よりして云ひますれば特得生ともならす優待生ともならぬとも健康でさへあらんことを希望するものです。今日優待生となり特待生となりても明日死んで仕舞ふたなら何んの利益にもならぬでわりませぬか、私の子供も肺患に罹りてより學問せすに遊はして置きますが、是れ迄には其の教育に少なからぬ費用も掛けました、でも肺病となりては仕様がありません肺病の豫防は体育です健康を以て肺病に打ち勝つこと

であります、人力車挽とか車力とかには肺病はなく又其の子供等は牛乳なとは生れてから飲んだことはなく鶏卵とは四角なものかと思ふ程であるに、夫れに其の子供等は健康であります、人は長壽して健康てさへあれはところてん主義で段々下より推し上けらるゝものである强健者には四尺(子爵)とも五尺(五爵)ともならるゝものです、學問は固より勉强せされはなりません、然とも學問の勉强には躰育が必要てす、躰育は勞働に優ッものはありません、帝國大學の生徒にして病死する者は殆んと肺病者ならさるはなしてす、當地の師範學校にも昨年四名の病死は皆な肺患でありました、一言以て諸君に警告せんとて肺病豫防の注意を與へられたり、

●寺田勇吉氏の節車談　寺田高等商業學校長曰く東京には凡そ九萬輌の人力車四萬人の車夫があつて之が爲め費消する高は一年殆んど千萬圓に近いと云ふ驚くべき金額である而して車夫の身躰上より云ふも肺を破り心臟を破り大に健康を害ふは確かなる事實である近來人力車夫が益々增加して苦しいながらも生活を爲して行く譯は乘り人も以前より殖えたからであるがさて乘客はと云へばその身分服裝等より見るも徒歩するが相當なるべきものが妄りに車に頼るやうになりたり惡慣惡化である車に乘る金で牛肉か鳥でも食したならば身躰の營養を助くることが出來て丈夫となるに却て人力車に乘て脚が健康を害することをして居る地方へ行つて見ても縣知事や書記官や市長などが役所と自宅とは目と鼻の間にありながら車に乘つて往復する又は自分が徒歩して後より空車を曳かせて行く是は實に無駄なことで何も必要もないに躰裁を飾るには及ばないことである東京も地方も益々此の如き有樣になつては生活に逐はれた上句の果ては人力車夫とならうと云ふ惡しき事例を作る如何しても今の内に防ぎ止めて其賤業を減じ一方には乘る人曳く人の健康保全を計らねばならぬ一躰當節の人達が車に限らず旅行をするときにも停車場に着くと自分にも持てる輕き荷物をさへ直「赤帽」に

渡したり旅館の下男や下女に蝙蝠傘迄持せるなど漸次無性になりて來た外國人などは重々しき荷物を身躰も曲ずに悠揚としてヒッ下げて歩み行く姿態は立派なものぢやナニ躰格が違ふと違ふぢやない十分健康を養へば誰にも出來る事である所謂活潑なる精神は健康なる躰軀に宿るであるから我國民は一層躰力を養成せねばならぬ節亊會は脚力躰勢を丈夫にする一の方法で極めて必要なり故に諸君も進んで實行し亦奬勵して貰ひたいものぢや云々

●鳥島爆發の前徴　鳥島の爆發せんとするや島の鷄は三ヶ月程以前より更に晨を告たることなく又溫泉の溫度も當時著るしく上騰し或は時ならざるに櫻花開き或は謂れなきに草木凋落せりと是を以て是を見れば病氣の爲め保養の爲め避暑の爲めに溫泉行の人々は尤もよく心得へきことなり日本は火山脈に尤も富めるを以ていつ何時爆發の急變なしとも限らざればなり

●刑死の時間　去る頃監獄醫學會に於て刑死即ち絞首絶死の時間に就き多くの實見せられたる人の說を見るに大概似たり寄ッたりなるが中には尤も早きものには八分にて全く心臟の鼓動の止まりしものありと云へども大多の說は十五分乃至十八分間にあるものゝ如く片山博士の實見せられし彼の有名なる東京本鄕なる鷄卵屋の小僧を三崎町で占殺したものゝ刑死時間を聞くに痙攣などは十五分で止みしも全く心臟の聞えなくなりしは十七分間なりしといふ

●改良水道の濁り　改良水道水は此頃の降雨の爲め東京市内各區とも灰白色を帶びたるを以て當局者及飲用者は大に心配せしも右は淀橋の濾過池に入るべき源水は其附近の惡水又は小川の溢れて流れ込み如何ともする能はず依て市の衛生試驗所に於て試驗中なりしが其結果飲料水として差支なしとのことなれども細菌の如何に就ては尚試驗中なるが飲用者は能く注意して沸騰したる後ならでは用ゐざることゝせらるべし

●コレラ豫防注射に就て　虎列剌豫防液注射のこと

は近頃盛んに行はれつゝあるが中濱博士には之に反對の意見を有され既に二三の新聞にも氏の談話見へしがハフキン氏が注射方法は虎列剌黴菌の發生したるものを注射して以て免疫せしむる者にて或は其黴菌を殺して爲すもあり又は毒力を弱めて注射するもありて種々なれとも何れにしても此方法が今日虎列剌豫防に對する完全なる方法なりや否やは學者の所說紛々たるものありて多數の學者の如きは全く此方法を以て無効のものとせるなり唯此注射豫防方法なるものは黴菌か動物の體内に注入したる場合に於てのみ免疫するの効あるのみとせり然らは人間の如き雖も黴菌を注入する者なきに對し此方法を施行するは甚だ解し難きの處置ならずや（中略）ハフキン氏の此方法は何等の證據なきものにて唯印度の或處に於て試驗したる極めて不完全なる統計成績に依るのみ學術界に決して定まれるものにあらざるなり若し之を施行したる人民にしてコレラ病に罹りたるものありとせんか是等の人民は必らずや此注射を以て恰かも種痘の如く豫防足れるものと信じ其他の豫防方法の於て輕忽になり不攝生のごときも仕兼ねまじきなり是れ予輩が此遣り方を以て危險なる現象と云ふ所以なり要するに試驗として施行するは敢て不可なき處なれとも是を以て直ちに豫防充分なるものと信ぜしむるは不法なりと云ふなり云々（下畧）兎に角大家同士學理の衝突とて容易く容喙すること能はざるなり

●牛乳飲用者の注意　今日牛乳を飲用する者日に増加し又營業者も數年前に比ぶれば其數を増し誠に喜ぶべきことなれども中には間々不良なものを販賣して少しも衞生などには注意せざるものあり飲用者は其良否に注意して必ず一度煮沸したるものならでは用ゐぬことゝなすべし既に先頃或る搾乳所より購求して煮沸したるにドロ〳〵と凝結せり之れ蓋し細菌の發生せし結果なり又稀に毛髮塵埃など混ずることとあるも最も注意すべきことなり又牛乳にて細菌の關係上危險のものなり是等は能く撰擇して衞生上の

注意を怠らざる樣注意せられたきものなり

●赤痢發生の時期と終滅の時期　最近十ヶ年間赤痢の發生の時期と其終滅の時期を私立大日本衞生會に於て調査せしに概ね左表の如しと云ふ要するに赤痢病は冬季に於て終滅せるか如しと云へとも其實然らざるもの丶如く初夏に至りて其勢力を逞うるか如し蓋し人身の健康は大に時期に關するものなれば春期及秋期の清潔法は忽かせにすべからざるものなり

	發生の月	終熄の月		發生の月	終熄の月
北海道	三、四月	一二月	東京	五、六月	一二月
京都	七	一二	大阪	四、五	一二
神奈川	四、五	一二	兵庫	六、七	一二
長崎	五	一二	新潟	五、六	一二
埼玉	五、六	一一、一二	群馬	五、六	一一、一二
千葉	六、七	一一	茨城	五、六	一一
栃木	四、五	一二	奈良	六	一二
三重	四	一二	愛知	七	一一
靜岡	六	一二	山梨	六	一一
滋賀	六、七	一二	岐阜	五、六	一二
長野	七	一一	宮城	七	一二
福島	五	一一	岩手	四、五	一一
青森	七	一二	山形	四	一二
秋田	七、八	一一	福井	四、五	一二
石川	五、六	一二	富山	五、六	一二
鳥取	五、六	一二	島根	六、七	一一、一二
岡山	六	一一、一二	廣島	五	一二
山口	四、五	一二	和歌山	五、六	一一、一二
徳島	六、七	一二	香川	六	一二
愛媛	六、七	一二	高知	五、六	一一、一二
福岡	六	一一	大分	六	一一
佐賀	六	一二	熊本	四、五	一一、一二
宮崎	五	一一、一二	鹿兒島	五	一二
沖繩	六、七	一二			

●文部省の留學生　去月一日を以て歐米各國へ留學を命ぜられものは三十四名にして中醫學に屬するものは七名にして久しく本會雜誌に筆を執られし醫學士櫻井恒次郎氏も解剖學研究の爲め滿三年獨逸へ留學せられたり

●氷嚢持續の注意　氷嚢持續のことは尤も注意を要すべきこととなるが某開業醫は其注意足らざりし故に凍傷を招きたる一例なるがソハ某産婦の發熱腹痛せる故を以て醫士を招きしに醫士は腹膜炎と診し下腹に氷嚢罨法を施せしに其第十日目に至り腹部一面に

水泡を發し凍傷を招き長日月の間に亘り困難せしとを聞けり是れ差し某醫士の氷嚢を直接に皮膚に觸接せしめし醫士の不注意によりて然るなり是等は素人迚もよく〳〵心得へきことなり

●同仁會の設立　我國は古來支那より醫術の啓發を受けたるものなれは今や支那朝鮮等東洋に於ける未開國をして之れが救濟を圖るは我那醫學者なるもの、一大義務なるものなりとて今回同仁會なるものを設立し長岡子爵會長となり、片山、中濱、北里、等百餘名によりて發起せられ發會式も盛んに華族會館に於て舉行し清國公使印度のダムマバラ等來會し極めて盛なりしといふ

●フイノー氏の長壽說　佛人ジエアン、フイノー氏の說によれは先づ多くの長壽者を證に舉げ人間の逐に老衰せる理由三個を示して曰く第一外氣中に於ける運動の不足せること第二に體內白血球の新陳代謝せざるより生ずる微菌の毒を蒙むること第三は少しく妙なれども尤も重きを措く處なり曰く死を恐怖することを是なりと若し人死を恐怖せば死は其人を奪ひ去るべし且つ死は全く喜ぶべきことなり之に比すべき快感あるを得ずとし氏は「アルプス」山に登り其頂上より墜落して一旦死し幸にして後蘇生したるハイム氏實驗談を引いて曰く最初は極樂の感あり次に全く觸覺及苦痛を感ぜず最後に二三秒間思想と想像とは極めて迅速に働きて其一生の事を回顧せしむ故に死は恐るへきものにあらざれども之を恐るべきもの、如く感ぜしむるを驚くと「モンテスキユー」は曰く吾人は人の死したる時に泣かず其生れたるときは淚を注ぐべしと然らば人間長壽法の最要因は少しも死を怖れざるにありと

●味噌製造に於ける各種材料の割合
左に掲くるは農學士長岡宗好氏の研究に係るものなりといふ(工業雜誌)

	白味噌	江戸味噌	田舍味噌	仙台味噌
大豆	五斗	同	同	同
麹	米六斗	米五斗	麥五斗	麥三斗二升五合
食鹽	一斗五升	二斗	二斗五升	二斗
水	一斗	一斗	未詳	未詳

成熟時日	四日	二十日	七ヶ月	八ヶ月
麹と混合の際大豆の溫度	甚だ熱し	熱し	少しく暖なり	寒冷

●醬油の簡易製造法（工業雜誌）

食鹽一合五勺を能く煎り之に太白砂糖四十匁を入れ尚ほ之に水一升と醬油一合とを投じ能く沸したる後木綿袋にて漉し用ゐるときは其風味侮り難き一升の醬油を得而も其製造費に僅少なりと云へば生活の困難なる者は宜しく用ゐて可なる方法たるべしと

●脚氣に就て　本年は近來稀な雨量澤山で隨て溫度も低くこんな氣候では衞生と云ふことが大切で傳染病といふ恐るべき病が各地に流行して吾人に恐怖心を起こさせし殊に本年は水腫黴菌が非常に繁殖した爲め脚氣に罹る者が多く例年は五月末より發生するが本年は三月末より始まり其多くは昨年の冬期より東京へ來りし人々にて東京の人にても新規の患者至て多し此脚氣病に就ては種々の治療法もあれども甲に効顯われば乙には効能が見えず却て病を重くする等のとありて一般に効驗あるといふ療法はない先つ池田醫學士の話と云ふを聞くに（第一）身體榮養の障害を除く事（第二）食物を改良して從來の動作を換る事（第三）全然新陳代謝の好結果を得せしむる事此の三ッに注意すれば脚氣に罹りても重體に陷るとはなしと云へり患者は右の三ッに注意して米食に換ゆるに麥飯を用ゐ起居動作をも變へ營養をよくし腸胃を害さゝる樣になし新陳代謝を速やかならしめんこと緊要なり

●傳染病者の數　內務省衞生局に於て最近の調査にかゝる日本の各種傳染病の數は一ヶ年に十三万八十除人にて其中死亡は三万五千余人之を百分比例にするときは赤痢は其三分二を占めヂフテリヤと腸窒扶斯は何れも八分一虎列剌と天然痘は何れも百分の一に當るといふ又各種傳染病患者の死亡割合の尤も多きは山梨縣一万に對し五十人の死亡にて東京の如きは七人の割合にして尤も少きは沖繩縣なりと又醫師の數は勿論東京尤も多く人口一万人に對し三十餘人次は熊本、高知、石川、島根長崎にて人口一万に對し十二三人京都大坂は十一人沖繩靑森は五人未滿

なりと又最近出產の多かしは青森縣にして次は北海道東京大坂京都出產の少きは沖繩島根鳥取なりといふ

●浦港の虎列剌劇烈　浦汐斯德にては昨今激烈なるコレラ流行し露、清、韓、日本人の之に罹るもの多く日本人は十二名の患者中十一名丈は死亡し一名丈治療中なりとの事なるが概發病より二十四時間に死亡する激病なりといふ

●秋田市大日本私立衛生會總會　大日本私立衛生會第二十次總會は豫定の如く去月廿三日午前八時秋田縣會議事堂に於て開會し副會頭北里博士開會の辭を述べ志波秋田縣知事御代秋田市長の祝詞理事長金杉博士の前年中會務の成蹟及び會計の報告をなし評議員三宅博士は内國衛生の報道を評議員大澤博士は海外衛生の報道を爲し休憩後午後一時より再び開會秋田支會副會頭野口警部長の祝辭評議員片山博士評議員三島博士幹事委員柴山學士の演說ありて同五時散會し翌廿四日は秋田衛生支會の總會を開き各博士諸氏の演說祝詞等あり孰れも非常の盛會なりしと云ふ

●檢疫官設置の指定　内務省に於てはコレラ豫防の爲め本月十一日より京都、廣島、愛媛、大分、熊本、宮崎、鹿兒島の一府五縣に明治卅三年勅令第九十七號に依り檢疫官設置の旨指定せしと云ふ

●各地のコレラ　去十三日の報告に依れば各地のコレラ病患者は左の如しと云ふ

京都	新五	―	福岡	新一二	死八
大阪	新一一	死八	廣島	新二〇	―
岡山	新二三	死一五	佐賀	新五	死二
山口	新三	―	長崎	新一	―
香川	新五七	―	大分	新一四	―
鳥取	新五	―	熊本	新九	―
愛媛	新五	―	鹿兒島	新一	―

●府下の諸傳染病患者　本年一月より本月二日に至る府下市郡内の諸傳染病患者は(虎列剌)市三十九人内死亡二十五人、郡同十二人内死亡八人(赤痢)市三百七十一人内死亡七十九人、郡同二百九十四人内死亡四十五人(腸窒扶斯)市五百九十二人内死亡百五

十三人、郡同二百十一人内死亡三十五人(瘧疾)市九人死亡なし郡同一人全治(猩紅熱)市四十三人内死亡二人、郡同三人内死亡一人(實布的里亞)市八百九十二人内死亡百六十二人、郡同百五十八人内死亡六十一人合計市一千九百四十六人、死亡四百二十一人、郡六百七十九人、死亡百五十人因に記す虎列剌及び赤痢は其疑似症をも算入せるものと知らるべし



大日本婦人衛生會記事

盛暑炎熱の候は去て今や梧桐秋を報ずるの候とはなりぬされば來十月四日を卜し本會の集會を麹町虎の門内東京女學館に於て開く講師は三宅博士伊藤學士兩名の講演あれば久々にて諸愛姉多數の參會を祈る

弔詞

嗚呼哀哉　宮中顧問官、中央衛生會長、貴族院議員正三位勳一等長與專齋氏逝く氏の衛生界に於ける功績は今更喋々を要せざるなり氏は本會の爲にも淺からず種々盡力せられしをもて氏の逝去せらるゝや本會副會長鍋島令夫人には役員を代表して參向せられ葬儀當日には飾花壹對を靈前に備へ本會事務所員會葬せり

●宇都宮支會報告

●七月例會

七月六日午後壹時より宇都宮高等女學校内に於て七月度例會を開く出席會員三十名計り左の講演ありて同四時閉會す

一、入浴に就て衛生上の注意　客員　大久保守夫君

一、虎列剌及び赤痢に就て　講師　波　宇貞君

●宇都宮支會の衛生幻燈會

八月三日午後五時より宇都宮市旭町旭館に於て衛生

幻燈演說會を開き會員の他市内重なる人々の家族五百餘名に招待狀を發したり當日は不幸朝來非常の大雨なりしにも係らず定刻に至りて三百餘名の出席を得たり依て左の順次に客員及び講師の演說、說明を終り午后十時十分閉會し客員には樓上に於て茶菓を饗したり

一、開會ノ辭　會長ニ代リテ　渡　手　貞君
一、空氣消毒　縣醫　島貫敏太郎君
一、傳染病流行時ニ於ケル主婦ノ心得　監獄醫　宍介宜孝君
一、婦人衛生論　縣立病院長醫學士　淺田　決君
一、鶏ノ胃袋　私立衛生支會幹事　田野邊意休君
一、小兒束縛ノ害　市醫　原　溫恭君
一、躰育論　學校醫　青永峰九郎君
一、婦人衛生會ニ望ム　縣醫　伊庭　秀君
一、(幻燈)普通衛生數十枚　島貫敏太郎君說明
一、山出シ下女　私立衛生支會副會長　渡辺三郎君
一、衛生ト作法　渡邊病院長　渡邊常成君
一、山出シ子守　小兒科專門醫　中里福次郎君
一、衛生ノ目的　神野病院長　神野勇三郎君
(幻燈)傳染病數十枚　渡手貞氏說明

尚本幻燈會に就いては縣醫島貫氏の好意に依りて本縣衛生課所藏の大幻燈器械を借用する事を得尚同氏自ら撮書の任に當られたりと云ふ本支會の共に深く謝する所なり



●本會入會者

○事務所申込
●麴町區下六番町回生病院　通常會員　菊池琴子
●芝區巴町三十四番地　通常會員　岩船手子
●甲斐國中巨摩郡小井川村八十二　通常會員　向山粂子

○小石川區牧野英子紹介
●麴町區下二番町六十番地　通常會員　内田りん子

○日本赤十字三重支會看護婦養生長紹介
●三重縣下度會郡宇治山田町大字河崎町　通常會員　中山ふく子

○本會幹事三浦敎子紹介
●麻布區東鳥居坂町九　通常會員　大島良子

○日本橋區樋口八重子紹介
●千葉縣長生郡二ノ宮本郷村國府關　通常會員　蓮沼貞久子

○牛込區養千代子紹介
●本郷區駒込千駄木林町九　贊成員　栗林勝太郎君

○日本橋區杉浦糸子紹介

●日本橋區濱町一ノ一　通常會員　武田てる子

○新潟支會より轉入

●淺草區三筋町六十一番地　通常會員　田邊りん子

○神田區尾花芳子紹介

●神田區駿河臺袋町濱田病院　通常會員　關みつ子

○四谷内山訓子紹介

●神奈川縣鎌倉字長谷四百三十一番地　通常會員　追水吉子

○大阪市北代こう子紹介

●大阪市東區谷町一ノ百五十八　通常會員　石川定子

●大阪市南區桃谷町二百七十三　通常會員　國分峰子

○醫學士久保猪之吉君紹介

●牛込區藥王寺前町四十二　特別會員　中村つね子

○伊勢國安岡やすへ子紹介

●伊勢國字治山田町立病院赤十字看護婦養成所　通常會員　草川はま子

●新潟支會入會者

○講師高橋辰五郎氏紹介

●新潟市西堀通　通常會員　鍋谷とし子

○評議員長谷川せん子紹介

●新潟市營所通　通常會員　松林よし子

○評議員長井さと子紹介

●新潟市西堀通　通常會員　野々山きん子

○會員山崎つる子紹介

●新潟市寄居町　通常會員　海津てつ子

●高崎支會入會者

○幹事三橋ひろ子紹介

●高崎市　通常會員　小山いく子

●仝　通常會員　鈴木ふく子

○贊成員横井氏紹介

●高崎市八島町甲十九番地　通常會員　田中れい子

○會員本多美佐子紹介

●高崎市柳川町　通常會員　土橋はや子

○評議員木下芳枝子紹介

●群馬縣群馬郡書記　贊成員　藤井平二郎君

●正誤　前號入會欄大阪中橋悦子紹介藤田富子には特別會員なりしを通常會員とせしは誤植に付玆に正誤す

（入會者次號）

＊　＊　＊　＊　＊

●新刊寄送書紹介

警察醫山根正次先生序文
東京顯微鏡學講習所主幹濱田政治著

通俗虎列剌病豫防法　完　袖珍壹册五錢

右は濱田氏の世間婦女子に理解し易き虎病豫防法なきを慨し輕便なる小册子に編輯したるものなり今や虎疫猖獗の折柄益し世を益すること尠からざるべし

女子美術學校附屬

料理法講習所

近時、女子ニ對シテ料理割烹ノ術ノ、盛ニ講習セラルヽニ、至レルハ甚ダ喜ブベキ事ニ屬ス、サレド其ノ講習法ノ實際ニ就テ見レバ、或ハ講習課目ノ徒ニ多キガ爲メニ、却ツテ煩雜ニ流レテ其實ヲ收メ難キコト、或ハ徒ニ高等ヲ名トシ日用ノ需用ニ遠ク、爲メニ實際ニ當リテ應用シ難キモノアルガ如キハ、往々目睹スル所ニテ、誠ニ憾トスル所タリ、茲ニ於テ、ソレ等講習上ノ欠陷ヲ補ヒ、且ツ講習者ヲシテソレ等ノ憾ナカラシメンコトヲ期シ此ノ度女子美術學校ノ附屬トシテ、新ニ料理法講習所ヲ設ケタルナリ而シテ、講習生ニ課スル所ノモノニ、女子ガ一家ヲ成スニ當ツテ日常最モ必要ナルモノヲ撰ベルハ勿論ナカラ尙ホ進ンデハ看護法ニ關セル衞生料理法マデニ及ボシ其間和ト洋ト、將タ和洋折衷トヲ問ハズ、總ベテ日常ノ需用ニ近カランコトヲ旨トセルニシテ、極メテ實際的ニ且ツ懇切ニ教授セントスルナリ

料理法講習所主任
佐藤靜子
横井玉子

一教場　本所ノ教場ヲ本郷區弓町一丁目廿六番地ニ設ク

一科目　本所ノ科目ヲ初等部高等部ノ二部ニ分ツ

一初等部　本所初等部ヲ更ニ日本料理科西洋料理科ノ二科ニ分チ主トシテ日用惣菜料理ヲ教フ

一高等部　本所高等部ヲ又日本料理科西洋料理科ノ二科ニ分チ上等料理及ヒ看護法料理ヲ教フ

一修業期限　本所ノ修業期限ハ初等部高等部トモ各々三ヶ月ヅツト定ム

一授業日　本所ノ授業日ヲ左ノ通リ定ム

初等部	日本料理科	火曜日午后	水曜日午后
仝	西洋料理科	月曜日午后	火曜日午前
高等部	日本料理科	水曜日午前	金曜日午前
仝	西洋料理科	月曜日午前	木曜日午后

但時宜ニヨリ變更スルコトアルヘシ

一授業料　本所ノ授業料ヲ左ノ通リニ定ム

初等部	日本料理科	一ヶ月金八十錢
	西洋料理科	一ヶ月金八十錢
高等部	日本料理科	一ヶ月金壹圓三十錢
	西洋料理科五回	
	支那料理科三回	一ヶ月金壹圓七十錢

一和洋支那高等料理　希望者ニハ臨時教授スルコトアルヘシ

一入學金　本所ハ講習生入學金トシテ金壹圓ヲ徴ス

一材料實費　本所ハ初等部ノ材料實費ヲ一回金十錢内外トシテ高等部ノヲ一回金貳拾錢内外トス但シ時ニヨリ多少變更スルコトアルベシ

一禮法講話　一週一回臨時ニ教授ス

一入學願書　講習志願者ハ左ノ書式ニ依リテ入學願書ヲ差出スベシ

◉暑中休暇後の授業ハ九月十五日より始業

一入學願書　（用紙ハ半紙）

現住所
原籍　何族籍　身分
業
生年月

貳錢印紙貼用

私儀今般貴校附屬料理法講習所ニ入學致度候ニ付キ御許可相成度此段保證人連署ノ上御願申上候

年　月　日

何科　部
右　何某　印
保證人　何某　印

女子美術學校附屬料理法講習所御中

一修業證書　本所修業證書ハ高等部マデノ講習ヲ結了セル者ニ授與ス、

日本料理擔任教授　赤堀峯翁
　　　　　　　　　赤堀峯吉
西洋料理擔任教授　木村留吉
支那料理擔任教授　支那人
取締主事　横井玉子

女子美術學校附屬

料理法講習所

東京本郷區弓町二丁目一番地

私立大日本婦人衛生會新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に属し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を務むるにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢通常會員仝金貳拾錢 支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條 會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善費金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す 各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演説をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を興行す●第九條 本會は毎年春期慰視會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質朴にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

事務所新潟市旭町一番町十番戸
河上フサ子方

明治廿九年四月創立

新潟支會

私立大日本婦人衛生會山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(六月)總會を開き講話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依頼すべし 本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より 六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は樸誠質素なるを要す上着及羽織は絹布を用ゐるを禁す

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通一百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依頼スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ届出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セス會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二ヶ月分宛ニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヨリ支會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ臨席セシムベシ●第八條 服裝ハ樸誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ絹布ヲ用ユルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會 茨城支會規則

第一條 開設の趣旨及目的 凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可からず之を望まんとするには必や衛生と相俟ちて而る後ち始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に隙して更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生上の事項を益研究し益改善を圖りてその發達を互に努め力めんとするに在る而已◎第二條 本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に設く◎第三條 本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會することを得◎第四條 入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるべし◎第五條 會員種類會員を分ちて特別。通常の終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むると◎第六條 男子にして本支會の趣旨を贊成する者は之を贊成員とす其の會費は本支會員に仝じ但し本支會に功勞ある者又は本支會に於て贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし◎第七條 本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得◎第八條 退會せんとする者は其旨本支會事務所に報知すべし(但死亡等は親戚知人より通知せらるべし)◎第九條 本支會に左の役員を置く支會長一名、副支會長一名、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す◎第十條 役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む◎第十一條 本支會長は本會を總理し副支會長は支會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し會計書記庶務各其事に當る(但し書記は都合により定員外のものにし臨時依托する事あるべし)◎第十二條 集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會は八月を除く外毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月滿定の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし◎第十三條 例會學識經驗ある知名の士に囑託して衛生上の講話又は之に關したる實驗等をなすものとし本支會員に聽講せしむ但し會員は知人家族を誘引して講話會することを得(此際出席の者の服裝は總て質素たるべし)◎第十四條 講話會の節は男子の入場を禁ず但し贊成員若しくは會員の緣故ある男子は此限りに非ずと雖本支會の都合により謝絶することあるべし◎第十五條 毎會開會の實費は本支會の都合により徴收するものとす◎第十六條 會計本支會の所有金は本支會の名義を以て第百四の銀行に預け置くものとす◎第十七條 本支會々費の收入金は其一部を便宜に本部へ回送するものとす◎第十八條 總會に於て會計の收支決算及成績等を報告するものとす◎第十九條 會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし◎第二十條 茲に記述したる數條の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部の規則を適用するものとす◎第二十一條 本支會規則は本支會長の意見又は會員二十名以上の贊成により總會の意見を經るに非ざれば改に之を變換する事を得ず。

明治三十四年十月創立

水戸市上市川見小路二十五番地

茨城支會

私立大日本婦人衛生會 高崎支會規則(明治三十五年四月創立)

◎第一條 當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ倂て社會全般の幸福を増進するを目的とす◎第二條 當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄合町五十番地に置く◎第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す◎第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ申込まるべし◎第五條 當支會に有衛其の他の徽章を與へらるゝ人士を推して講師又は特志贊助員となす◎第六條 當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし◎第七條 支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名◎第八條 役員は役員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は會員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得◎第九條 本會の特別贊成員を定員外の評議員とす◎第十條 當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす◎第十一條 總會及の講話會は家族並に贊成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列を謝絶することあるべし◎第十二條 本會々員は一箇月金五錢を出すものとす◎第十三條 支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を納む但三箇月分以上前納すべし◎第十四條 支會の會費の徴收は集會の席上に於て會計の名を以て銀行に預け置くものとす◎第十五條 會員の外物品を寄附し又は使用せんとするときは之を受納す◎第十六條 會員は服裝其他の質素に注意し集會の節は禮儀を重んず◎第十七條 會員は服裝其他質素に勵行すべし◎第十八條 特に此規則に掲げざる者は本會の規則を準用す

事務所 高崎市寄合町五十番地

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表章するため左の徽章を用ゆ

第二條　會員章は本會幷に支會の出會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ



●通常會員章

第三號　メッキ製拾五錢、送費六錢

第二號　正銀製五拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章

第一號　壹圓、送費九錢

●入會注意

御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也

但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候なり●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又價格表記通運便、何にても差支なし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

廣告料　一行十錢　一頁卷四圓　本誌一部定價十五錢

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四

發行所　私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地

編輯兼發行人　田中德三郎

東京牛込區市ヶ谷加賀町二丁目十二番地

印刷人　戸上義章

明治二十六年四月五日第三種郵便物認可
明治三十五年九月二十日發行及印刷
婦人衞生雜誌第百五拾四號（毎月一回十五日發行）

東京市牛込區市ケ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工塲印刷